

令和4年度

社会調査実習報告書

第 11 号

淑徳大学

コミュニティ政策学部

はしがき

本報告書は、淑徳大学コミュニティ政策学部コミュニティ政策学科の「社会調査実習」を履修した学生の調査研究の成果である。

コミュニティ政策学科では、専門科目（社会学分野）の教育目標に「社会事象や社会に関連する諸事実を明らかにするために、データの収集から分析にいたるまでの基礎的な事柄を理論と方法の両面から理解する」ことを据え、コミュニティ研究の方法の1つである社会調査を学生が体系的に学習するためのカリキュラムを組んでいる。1年次前期に「社会調査論」、1年次後期に「社会調査法」、2・3年前期に「統計解析法」と「社会統計学」、2・3年後期に「量的解析法」を履修する。これらの計5科目の単位を修得済みであることが、3・4年前期開講の「社会調査実習」の履修条件となっている。

「社会調査実習」は、それまでの各社会調査関連科目での学びの集大成として、研究テーマの設定から、テーマに関わる仮説および分析方法の検討、調査票の作成、実査、データの集計と解析、そして報告書による成果の公表という社会調査の一連の過程に、学生が主体となって取り組むものである。

令和5年度の科目担当教員は本多敏明と青柳涼子、社会調査助手は渡辺由希であり、履修学生は6名であった。6名ともこの「社会調査実習」の単位修得をもって「社会調査士資格」取得に必要な科目をすべて履修済みとなる。

令和5年度は、2020東京オリンピック・パラリンピック終了後に、パラスポーツの認知度や経験率が上がっているかどうか、どのような「レガシー」が残ったとどういうかを調査研究のテーマとした。また今回の調査に先立って、2018年には開始約2年前の時点でのパラスポーツ認知度や経験率を尋ねる調査を実施したため、2020東京オリンピック・パラリンピック実施の前後の比較も可能な限り行っていきたい。

調査の実施にあたっては、調査にご回答いただいた方々はもとより、ちばしパラスポーツコンシェルジュ、とくに杉山浩氏にご助言をいただいた。ここに記して感謝を申し上げたい。

淑徳大学コミュニティ政策学部
准教授 本多敏明
教授 青柳涼子

目次

はしがき	本多 敏明・青柳 涼子	i
第1章 調査の概要	青柳 涼子	1
第2章 東京2020パラリンピックの開催と地域愛着との関連	木内 乃愛	9
第3章 東京2020パラリンピックの感動とパラスポーツ接触意欲や知識の関連	關口 祥平	14
第4章 東京2020パラリンピックを観戦しての感動体験と主体的援助行動	鈴木 まゆ子	18
第5章 パラスポーツ接触と主体的援助行動の関連	折戸 彦馬	22
第6章 文化資本と千葉県が取り組んでいる福祉政策への認知度・興味の関連	成田 吏玖	27
第7章 千葉県の福祉政策と多様性理解との関連	守屋 大地	32
第8章 精神障がい者の生活上の課題発見を規定する要因の検討	渡辺 由希	37
第9章 身近な障がい者の存在とパラスポーツ接触経験および接触意欲の関連	本多 敏明	42
あとがき	渡辺 由希	47
付録		
基礎集計表		51
調査票		73

第1章 調査の概要

青柳 涼子

1. 調査概要

(1) 調査対象者

本調査の調査対象者は、千葉県在住の男女 3500 人である。対象者の年齢は 20～69 歳で、住民基本台帳（2021 年 4 月 1 日現在）で確認した性別年齢別人口の分布に基づきサンプルを割り当てた。調査方法はインターネット調査であり、株式会社クロスマーケティングに依頼した。

表 1-1 は、調査対象地域の性別年齢別人口とサンプル割り当て数を示している。

表 1-1 住民基本台帳に基づく人口とサンプル割り当て数

年齢	男性	女性	合計
住民基本台帳に基づく人口			
20-29	345,902	320,494	666,396
30-39	382,275	351,443	733,718
40-49	493,414	456,422	949,836
50-59	448,875	417,681	866,556
60-69	363,177	366,766	729,943
全体 (20～69)	2,033,643	1,912,806	3,946,449
サンプル割り当て数			
20-29	307	284	591
30-39	339	312	651
40-49	438	405	842
50-59	398	370	769
60-69	322	325	647
全体 (20～69)	1,804	1,696	3,500

調査期間は、2022 年 6 月 16 日（木）17 時から 6 月 18 日（土）11 時 30 分である。回収された 3500 サンプルに対してエラーチェックを行ったところ、全サンプルが有効であることが確認された。有効サンプルの性別年齢別分布を表 1-2 に示す。

表 1-2 性別年齢別分布

年齢	男性	女性	合計
20-29	99	254	353
30-39	368	342	710
40-49	617	405	1022
50-59	398	370	768
60-69	322	325	647
全体 (20～69)	1804	1696	3500

(2) 調査項目

本調査の調査名と主な調査項目は、以下のとおりである。

調査名：パラスポーツ、パラリンピックに関する調査

主な調査項目：

- ・居住地
- ・パラスポーツ競技の認知度
- ・千葉県ゆかりの2020東京パラ出場選手の認知度
- ・パラスポーツ接触経験および接触意欲
- ・東京2020パラ感動経験
- ・ボランティア活動への関心
- ・地域愛着
- ・日常的なスポーツ接触および文化的行動
- ・千葉県の福祉政策の認知度
- ・日頃の対人援助行動
- ・他者の生活課題の関心度
- ・身近な障がい者の有無 など

なお、性別、年齢、配偶関係、子どもの有無、世帯年収、個人年収、職業といったフェイス項目は、調査会社より提供された。これらは、調査会社にモニター登録している者が年1回更新しているデータである。

本調査の基礎集計結果は、巻末に収載されている。

2. 前回（2018年）調査との比較分析

「はしがき」に記載のとおり、今回、我々が実施した調査（以下、2022年調査）の目的の1つは、2018年に実施した調査（以下、2018年調査）との比較分析である。ただし、調査対象地域および調査対象者、調査票上の設問には、かなりの程度の相違点がある。以下では、その相違点を明らかにし、比較分析のために行ったデータ処理の過程を示す。

なお、2018年調査の詳細は、『平成30年度社会調査実習第7号』（淑徳大学 コミュニティ政策学部）を参照されたい。

(1) 調査対象者

2022年調査は千葉県全域の住民を調査対象に据えているのに対して、2018年調査は千葉市から半径20キロ圏内の18市町の住民を対象に実施された（株式会社マクロミルのモニター会員）。両調査で得たデータを用いて比較分析するにあたっては、調査対象地域を揃える必要がある。2022年調査で、2018年調査と同一地域の住民から得られたケースは、2219ケースである。2つの調査の性別年齢別分布を表1-3に示す。

表 1-3 性別年齢別分布

		20代	30代	40代	50代	60代	合計	N
2018年調査	男	15.7%	19.0%	24.8%	22.3%	18.2%	100.0%	516
	女	16.7%	19.1%	24.5%	19.3%	20.4%	100.0%	486
2022年調査	男	5.6%	21.3%	34.6%	22.3%	16.3%	100.0%	1150
	女	16.0%	19.3%	24.1%	21.5%	19.1%	100.0%	1069

2つの調査の男女比については大きな差はないが（2018年調査：男性 51.5%、女性 48.5%、2022年調査：男性 51.8%、女性 48.2%）、2022年調査は2018年調査に比べて20代男性の割合が低く、40代男性の割合が高い。

（2）比較分析に用いる項目

2つの調査は、基本的には各年度の履修学生の問題関心と仮説に基づき調査項目を作成している。したがって、全く同じ文言を用いた調査項目は必ずしも多くない。今回、比較分析に使用した項目は、基本属性のほか下記の4項目である。

①パラスポーツ認知度

2022年調査ではパラスポーツ10競技¹⁾を対象にその認知度が調査されたが、2018年調査の対象は8競技²⁾だった。今回、比較可能な競技は以下のとおりである。

- ・車いすラグビー
- ・車いすバスケットボール
- ・五人制サッカー（ブラインドサッカー）
- ・ボッチャ
- ・車いすフェンシング
- ・パラテコンドー
- ・ゴールボール
- ・シッティングバレーボール

両調査では選択肢も異なっている。2022年調査の選択肢は「だいたいのルールを知っている」「ルールは知らないが、名称は知っている」「知らない」の3択だが、2018年調査の選択肢は「知っている」「見聞きしたことがある」「知らない」の3択であった。

今回は、便宜的に2022年調査の「だいたいのルールを知っている」と「ルールは知らないが、名称は知っている」を「知っている」群として統合し、「知らない」と区別した（2値化した）。また、2018年調査の「知っている」と「見聞きしたことがある」を「知っている」群として統合し、「知らない」と区別（2値化）して分析することにした。

②パラスポーツ接触経験

我々は、人々のパラスポーツとの接触経験を3つの角度から捉えることを試みた。

第一に、「メディアを通じた接触経験」である。2022年調査では「パラスポーツの試合をテレビやインターネットで見たことがある」「パラスポーツに関する記事を新聞や雑誌で読んだことがある」という2項目について、4つの選択肢（「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」）を用意した。2018年調査では、テレビ、インターネット等のメディアを個別に挙げてパラスポーツの接触経験をたずねている。

第二に、「パラスポーツ観戦経験」である。2022年調査では「競技場や体育館、スタジアムなどでパラスポーツを観戦したことがある」、2018年調査では「競技場等や体育館、スタジアムなどの会場でパラスポーツを観戦したことがある」という項目を用意した。選択肢はどちらも「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」の4つである。

第三に、対象者自身の「パラスポーツ体験」である。2つの調査ともに「パラスポーツを体験したことがある」という項目を用意した。選択肢は、どちらも「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」の4つである。

上記のうち、パラスポーツ観戦経験とパラスポーツ体験の2項目を比較可能な項目と判断し、かつ、分析においては「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を「あてはまる」群、「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」を「あてはまる」群にそれぞれ統合した。

③パラスポーツとの接触意欲

我々は、パラスポーツとの接触意欲を「見る」「する」「支える」の3つの角度から捉えることを試みた。

まず「見る」意欲について、2022年調査でも2018年調査でも「競技場や体育館、スタジアムなどに行ってパラスポーツを観戦したい」という項目に対して、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」の4つ選択肢を用意した³⁾。

次に「する」意欲について、2022年調査では「誰と」一緒にパラスポーツを体験したいかをたずねた。すなわち、「健常者と一緒にパラスポーツを体験したい」「障がいのある人と一緒にパラスポーツを体験したい」という項目を用意した。一方、2018年調査は、「体験してみたいパラスポーツがある」という項目が設定されていた。

さらに「支える」意欲について、2022年調査では「パラスポーツを体験するイベントにボランティアや手伝いとして参加したい」という項目を、2018年調査では、「パラスポーツにボランティアとして参加したい」という項目をそれぞれ用意した。

上記のなかで、今回、比較可能な同一項目と判断できる項目は「見る」意欲についてたずねた1項目のみと判断した。かつ、分析においては「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を「あてはまる」群、「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」を「あてはまらない」群にそれぞれ統合した。

(3) 分析

2021年に東京オリンピック・パラリンピックが開催されたことで、人々の「パラスポーツ認知度」や「パラスポーツ接触経験」「パラスポーツ接触意欲」にはどのような変化があったのだろうか。

①パラスポーツ認知度

表1-4は、調査年と8競技の認知の状況をクロス集計し、 χ^2 乗検定を行った結果である。この表から、すべての競技の認知度が一方向に変化していないことがわかる。つまり、認知度が上がった競技もあれば、変わらない競技、さらには下がった競技もあることがわかる。

認知度が上がった競技は、「車いすラグビー」と「ボッチャ」である。「車いすラグビー」を「知っている」と回答した者は、2018年調査では22.7%であったが、2022年調査では51.7%である。「ボッチャ」を「知っている」と回答した者は、2018年調査では40.7%であったが、2022年調査では61.2%である。

認知度が下がった競技は、「車いすバスケ」と「五人制サッカー」、「車いすフェンシング」、認知度が変わらなかった競技は「パラテコンドー」と「ゴールボール」、「シッティングバレーボール」である。

このような結果になった理由・背景は、慎重に検討する必要があるだろう。既述のとおり、両調査では異なる選択肢が用いられた。2018年調査では、用語（競技名）の認知の有無が問われたのに対して、2022年調査では、最初の選択肢で「だいたいのルール」の認知の有無が問われている。2つめの選択肢で「名称」の認知までレベルが下がってはいるものの、やはり最初に「ルール」の認知を問われたことで、回答者が自分自身の認知を厳しく評価した（つまり、「知らない」を選んだ）可能性がある。また、2つの調査では利用した調査会社が異なることから、登録モニターも異なることを付言しておく。

上記の点を踏まえつつ、改めて競技ごとに傾向を確認してみよう。

認知度が下がった3競技（車いすバスケットボール・五人制サッカー・車いすフェンシング）は、2018年調査においてすでに「知っている」者の割合が比較的に高い競技であった（83.7%、60.5%、42.5%）。とくに「車いすバスケットボール」は8割を超えており、認知度の伸び幅がおのずと小さくなるといえる。

一方、認知度が変わらなかった3競技（パラテコンドー、ゴールボール、シッティングバレーボール）は、2018年調査で「知っている」者の割合が20%前後ととくに低い競技であった。残念ながら、東京オリ・パラ開催後も、大きく認知度が上がらなかった、といえる。

そのような状況にあって、「車いすラグビー」と「ボッチャ」の認知度の高まりは特筆に値するものである。性別や世代別に分析してみても、男女ともに、また全世代で、有意に「知っている」と回答した者が増えていた。

表 1-4 パラスポーツ（8競技）の認知度

		知っている	知らない	計		χ^2 値	p 値	
車いすラグビー	2018 年調査	22.7%	77.3%	100.0%	1002 人			
	2022 年調査	51.7%	48.3%	100.0%	2219 人			
車いす バスケットボール	2018 年調査	83.7%	16.3%	100.0%	1002 人	21.463	0.000	***
	2022 年調査	76.5%	23.5%	100.0%	2219 人			
五人制サッカー	2018 年調査	60.5%	39.5%	100.0%	1002 人	35.720	0.000	***
	2022 年調査	49.1%	50.9%	100.0%	2219 人			
ボッチャ	2018 年調査	40.7%	59.3%	100.0%	1002 人	117.433	0.000	***
	2022 年調査	61.2%	38.8%	100.0%	2219 人			
車いす フェンシング	2018 年調査	42.5%	57.5%	100.0%	1002 人	9.150	0.002	**
	2022 年調査	36.9%	63.1%	100.0%	2219 人			
パラテコンドー	2018 年調査	17.8%	82.2%	100.0%	1002 人	0.017	0.896	
	2022 年調査	17.6%	82.4%	100.0%	2219 人			
ゴールボール	2018 年調査	24.7%	75.3%	100.0%	1002 人	2.675	0.102	
	2022 年調査	27.4%	72.6%	100.0%	2219 人			
シッティング バレーボール	2018 年調査	25.1%	74.9%	100.0%	1002 人	1.388	0.239	
	2022 年調査	27.1%	72.9%	100.0%	2219 人			

②パラスポーツ接触経験

表 1-5 は、調査年とパラスポーツの観戦経験の有無をクロス集計し、フィッシャーの正確検定を行った結果を示している。「競技場や体育館、スタジアムなどでパラスポーツを観戦した経験がある」という項目に「あてはまる」（あてはまる＋どちらかといえばあてはまる）と回答した者の割合は、2022 年調査の方がわずかに低いですが、有意な差ではない。

表 1-5 パラスポーツ観戦経験

	あてはまる	あてはまらない	計	
2018 年調査	8.0%	92.0%	100.0%	1002 人
2022 年調査	5.3%	94.7%	100.0%	2219 人

p=0.975

表 1-6 は、調査年とパラスポーツ経験の有無をクロス集計し、フィッシャーの正確検定を行った結果を示している。「パラスポーツを体験したことがある」という項目に「あてはまる」（あてはまる＋どちらかといえばあてはまる）と回答した者の割合は、2018 年と 2022 年ではほぼ変わらず、5%台であった。

表 1-6 パラスポーツ体験

	あてはまる	あてはまらない	計	
2018 年調査	5.7%	94.3%	100.0%	1002 人
2022 年調査	5.6%	94.4%	100.0%	2219 人

p=0.935

③パラスポーツ接触意欲

表 1-7 は、調査年とパラスポーツ観戦意欲（「見る」意欲）の有無をクロス集計し、フィッシャーの正確検定を行った結果を示している。「競技場や体育館、スタジアムなどに行ってパラスポーツを観戦したい」という項目に「あてはまる」（あてはまる＋どちらかといえばあてはまる）と回答した者の割合は、2022 年調査の方がわずかに低いが、有意な差ではない。

表 1-7 パラスポーツ観戦意欲

	あてはまる	あてはまらない	計	
2018 年調査	19.7%	80.3%	100.0%	1002 人
2022 年調査	17.8%	82.2%	100.0%	2219 人

p=0.201

（４）まとめ

東京オリンピック・パラリンピック開催前後で「パラスポーツ認知度」「パラスポーツ接触経験」「パラスポーツ接触意欲」にいかなる変化があったか、比較可能と判断した項目に限定した分析を行ったところ、以下のことが明らかになった。

第一に、パラスポーツの認知度は、競技ごとにその様相が異なっていた。前回調査よりも認知度が高かった競技もあれば、変化のなかった競技、低かった競技もあった。このような結果になった理由は、もともとの認知度のレベルの違いのほかに、調査票上の文言の違いが関連していると考えられ、認知度については条件を揃えた調査が必要と思われた。そのような課題がありながらも、認知度が急上昇した「車いすラグビー」および「ボッチャ」の認知度の高まりの要因の探求は、今後、他の競技の認知度の上昇に寄与するものと考えられる。

第二に、人々のパラスポーツ観戦経験（＝競技場等での観戦経験）には、大きな変化がなかった。これは、東京オリンピック・パラリンピックの開催方式によるものと考えられる。無観客での開催方式は、当然のことながら人々の観戦経験を増やすインパクトにはならなかったのである。

また、パラスポーツ体験者も、大きな変化がなかった。全国各地で関係者によりパラスポーツ体験会が開催されたが、コロナ禍にあってさまざまな制約を受け、パラスポーツ体験の割合を高めることにはならなかったようである。

第三に、人々のパラスポーツ接触意欲もまた、大きな変化がなかった。しかし、観戦経験と接触意欲を単純に比較するならば、「あてはまる」と回答した人々には 10 ポイントの差がある。今後は、パラスポーツ観戦意欲のある人々に観戦機会を提供すること、そして観戦を希望する者の割合を高めることが課題といえるだろう。

注

- 1) ボッチャ・ゴールボール・車いすバスケットボール・車いすラグビー・車いすテニス・車いすフェンシング・パラアーチェリー・パラテコンドー・シッティングバレーボール・5人制サッカー（ブラインドサッカー）の10競技である。
- 2) ウィルチェアーラグビー・車いすバスケットボール・ブラインドサッカー・ボッチャ・車いすフェンシング・パラテコンドー・ゴールボール・シッティングバレーボールの8競技である。
- 3) 2018年調査では、ほかに「テレビで観戦してみたいパラスポーツがある」「インターネットで観戦してみたいパラスポーツがある」という項目も設定していた。

第2章 東京2020パラリンピックの開催と地域愛着との関連

木内 乃愛

本章では、東京2020パラリンピックの開催と地域愛着をテーマに、以下2つの仮説について検証を行う。

現在、パラスポーツの課題のひとつとして認知度の低さが挙げられ、資金不足などの他の問題にも繋がっている。そのようななか、2021年に世界的に有名なパラスポーツの大会である東京2020パラリンピックが日本で開催された。身近でパラリンピックのように大きな大会が開催されたことで、パラスポーツについてはパラスポーツ選手の認知度の向上のきっかけになったのではないかと考え、また、自分たちの住む市町村で世界的な大会が開催される効果として地元が盛り上がり、地域愛着度の向上にも繋がっているのではないかと考え、下記のテーマに着目して仮説を立て、検証を行った。

仮説1：東京2020パラリンピックの競技が行われた千葉市に住んでいる人の方がそれ以外の市町村に住んでいる人よりも地域愛着度が高い

仮説2：地元千葉県にゆかりのある東京2020パラリンピック出場選手を知っている人の方が知らない人よりも地域愛着度が高い

1. 仮説1「東京2020パラリンピックの競技が行われた千葉市に住んでいる人の方がそれ以外の市町村に住んでいる人よりも地域愛着度が高い」の検証

(1) 東京2020パラリンピック開催地域の居住についての項目

東京2020パラリンピックのうち千葉県内で開催された競技は、ゴールボール、シッティングバレーボール、テコンドー、車いすフェンシングの4競技であり、それらは千葉市にある幕張メッセで行われた。そのため、居住地を千葉市か千葉市以外かの2群に分けた。

SC4	千葉市	564人 (16.1%)
	千葉市以外	2936人 (83.9%)

(2) 地域愛着に関する項目

地域愛着度を調べるために自分の住む地域に関して、以下の10項目を尋ねた。

- Q4S1 地域は住みやすいと思う
- Q4S2 地域にお気に入りの場所がある
- Q4S3 地域を歩くのは気持ちよい
- Q4S4 地域の雰囲気や土地柄が気に入っている
- Q4S5 地域が好きだ
- Q4S6 地域ではリラックスできる
- Q4S7 地域は大切だと思う
- Q4S8 地域に愛着を感じている

Q4S9 地域に自分の居場所がある気がする

Q4S10 地域は自分のまちだという感じがする

それぞれの項目について「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」の4件法で回答を得た。地域愛着に関する回答を逆転させ「あてはまる」を3点、「どちらかといえばあてはまる」を2点、「どちらかといえばあてはまらない」を1点、「あてはまらない」を0点とした。

これらを合成変数にするために、クロンバックの α 係数の算出を行ったところ、 α 係数は0.964と0.7以上であったため、地域愛着に関する10項目を尺度として使用することに一定の内的整合性があると判断される。10項目の総和を算出し、合計点が高いほど地域愛着が高いという地域愛着尺度を作成した。

作成された地域愛着尺度の記述統計は次のとおりである。平均値16.3、中央値18.0、標準偏差7.76、最小値0、最大値30、尖度-0.27、歪度0.40。

(3) 平均値の差の検定 (t 検定)

居住地が千葉市か否かと地域愛着度との関連を調べるため、独立変数を居住地の2群、従属変数を地域愛着度として平均値の差の検定 (t 検定) を行った。

表 2-1 開催地 (千葉市) に居住しているか否かによる地域愛着度

		平均	標準偏差	t 値	自由度	p 値
千葉市	(n=564)	16.36	7.78	0.34	3498	0.74
千葉市以外	(n=2936)	16.24	7.76	0.33		

表 2-1 は東京 2020 パラリンピックの開催地 (千葉市) に居住しているか否かと地域愛着度について t 検定を行った結果である。結果、表 2-1 のとおり有意な差はみられなかった。つまり、大会開催地に居住しているか否かと居住地域への愛着には関連がないと言える。

2. 仮説 2 「地元にはゆかりのある東京 2020 パラリンピック出場選手を知っている人の方が知らない人よりも地域愛着度が高い」の検証

(1) 地元にはゆかりのある選手の認知度についての項目

地元にはゆかりのある選手の認知度を調べるために、千葉県にはゆかりのある東京 2020 パラリンピック出場選手 36 名のうち、以下の 10 名について「千葉県にはゆかりのある選手だと知っているか」を尋ねた (各選手の情報は千葉県ホームページより。一部改変)。

Q2S1 車いすテニス男子 国枝慎吾 選手 (柏市出身、麗澤大学卒業)

Q2S2 バトミントン女子 里見紗季奈 選手 (八街市出身、千城台高校卒業)

Q2S3 水泳男子 鈴木孝幸 選手 (千葉県在住)

Q2S4 車いすバスケットボール男子 香西宏昭 選手 (千葉市出身、千葉県在住)

- Q2S5 車いすバスケットボール男子 川原凜 選手（千葉県在住、千葉ホークス所属）
 Q2S6 車いすラグビー 池崎大輔 選手（浦安市在住）
 Q2S7 陸上競技 鈴木朋樹 選手（館山市出身、木更津総合高校卒業）
 Q2S8 バトミントン女子 杉野明子 選手（市原市出身、市原八幡高校、淑徳大学卒業）
 Q2S9 柔道女子 小川和紗 選手（市原市出身、千葉盲学校高等部卒業）
 Q2S10 ボッチャ 廣瀬隆喜 選手（君津市出身）

当初、回答選択肢は「知っている」「知らない」の2件法にしようとしたが、「知らない」と回答する人が多くなってしまうと予想し、これまでは知らなかったが、地元にはゆかりがあることを知ってこれから応援したいと考える人を加えた「知っている」「知らない」「知らなかったが、これから応援したい」の3件法で回答を得た。

表 2-2 千葉県にゆかりのある東京 2020 パラリンピック出場選手の認知数

	知っている (%)	知らない (%)	知らなかったが、 応援したい (%)	合計 (%)
国枝慎吾 選手	29.3	50.9	19.8	100.0
里見紗季奈 選手	3.4	70.8	25.8	100.0
鈴木孝幸 選手	5.4	69.9	24.7	100.0
香西宏昭 選手	4.6	69.9	25.5	100.0
川原凜 選手	3.0	71.1	25.9	100.0
池崎大輔 選手	5.7	68.8	25.5	100.0
鈴木朋樹 選手	2.5	71.7	25.8	100.0
杉野明子 選手	2.4	71.5	26.1	100.0
小川和紗 選手	2.0	71.9	26.1	100.0
廣瀬隆喜 選手	4.7	70.4	24.9	100.0

表 2-2 は得られた回答の単純集計である。残念ながら、車いすテニス男子の「国枝慎吾選手」を除いて認知度が低かったため、仮説の検証には「知っている」と「知らなかったが、これから応援したい」の2つをまとめ、「知っているもしくは応援したい」と「知らない」の2群に分けた。応援したいと回答した人に関しては、この調査によって選手のことを認知したと想定した。

さらに、認知度を測るために、「知っているもしくは応援したい」と回答した数を足し上げ、その総和をゆかりの選手認知度とした。得点が高いほどゆかりのある選手の認知度が高いことを意味する。総和を算出するにあたり、まず信頼性係数を求めた。クロンバックの α 係数は0.954で0.7以上であり、内的整合性があるという結果が得られたため、合成した。しかしながら、「知らない」が半数近く偏りがあるため、次の3群に分けることにした。10人のうち10人全員「知っているもしくは応援したい」と回答した「認知数高群」(891人、25.5%)、また1人～9人を「知っているもしくは応援したい」と回答した「認知数中群」(995人、28.4%)、そして全員「知らない」(応援したいと思わない)と回答した「認知数無群」(1614人、46.1%)の3群に分け、地元には

その理由として、新型コロナウイルスの流行によって予定より1年延期しての開催であったこと、感染予防のため競技は無観客で行われ観光客も少なかったこと、オリンピック・パラリンピック開催期間中、千葉県にも緊急事態宣言が発令されていて外出を自粛する人が多かったことなど例年の大会とは異なる部分が多く、居住者が地元で誇りや愛着を感じやすいイベントではなかったことが考えられる。また、仮に新型コロナウイルスの影響がなかったとしても、推測の域を出ないが、千葉市以外の市町村の地域愛着度も同じ千葉県内ということで同様に上昇していた可能性も考えられる。パラリンピックの開催に限らず、世界的に有名な大会が開催されることで地元が注目を浴び地域と人々が盛り上がるのが、開催地および周辺の地域愛着の上昇に影響を与えるのかもしれない。

仮説2「地元でゆかりのある東京2020パラリンピック出場選手を知っている人の方が知らない人よりも地域愛着度が高い」では、はじめに調査対象である千葉県にゆかりのある東京2020パラリンピック出場選手の認知度を調べた。千葉県にゆかりのある出場選手の中でも今大会でメダルを獲得した選手から10人を選んだが、残念ながら車いすテニス男子の国枝慎吾選手を除き、地元選手のことを「知っている」と回答した人は全体の2～6%と低いことが分かり、選手の認知度向上の余地があると考えられる。しかし、これまでは知らなかったがこの調査をきっかけに地元選手のことを応援したいと考える人も25%ほどいることが分かったため、地元でゆかりのあることをアピールしながら認知度向上のための活動に取り組むことで、ファンを増やすことができるのではないだろうか。そして地元でゆかりのある選手の認知度を3群に分けそれぞれの地域愛着度の差を分析した結果から、地元選手の認知数が増えファンが増えるほど、地域愛着度が高い人が増える可能性がある。つまり、地元のパラスポーツチームや将来有望な選手の支援、PRに取り組むことがチームや選手の支援になると同時に、チームや選手とは直接の関係がないように思われる地域住民に対しても居住地に対する地域愛着度を上昇させる効果がありうると考えられる。

残された課題として、今回の調査では、地元でゆかりのある選手の認知数もしくは応援したい選手の人数が多いから地域愛着度が高いのか、反対に地域愛着度が高いからゆかりのある選手の認知数もしくは応援したいと考える選手が多いのかという因果関係は不明であるが、何かしらの関係があることが分かった。

参考 URL

千葉県「千葉県にゆかりのあるパラリンピック選手の紹介」

(<https://www.pref.chiba.lg.jp/oripara/kaisai/yukari/para-athletes.html>)

第3章 東京2020パラリンピックの感動とパラスポーツ接触意欲や知識の関連

関口 祥平

2020年東京パラリンピックを終えて、東京2020パラリンピックの開会式・閉会式や試合内容や大会を支えている人に対して感動した人はパラスポーツのイベントにスタッフとして参加したり観戦したり実際に体験するなどパラスポーツ接触意欲が高くなり、さらにパラスポーツに関する知識が多くなるのではないかと考えた。

仮説1：東京2020パラリンピックで感動した人は感動していない人よりもパラスポーツ接触意欲が高い

仮説2：パラスポーツ接触意欲が高い人は低い人よりもパラスポーツに関する知識が多い

1. 仮説1「東京2020パラリンピックで感動した人は感動していない人よりもパラスポーツ接触意欲が高い」

(1) 東京2020パラリンピックの感動の尺度化

東京2020パラリンピックについて以下の項目を「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」、「どちらかといえばあてはまらない」、「あてはまらない」の4件法で尋ねた。

Q3S5 東京2020パラリンピックの開会式・閉会式を視聴して感動した

Q3S6 東京2020パラリンピックの試合を観戦して試合内容に感動した

Q3S7 東京2020パラリンピックの試合を観戦して出場している選手に感動した

Q3S8 東京2020パラリンピックの試合を観戦して大会を支えている人に感動した

東京2020パラリンピックの感動についての回答を尺度化するために逆転項目処理を行い「あてはまる」を4点、「どちらかといえばあてはまる」を3点、「どちらかといえばあてはまらない」を2点、「あてはまらない」を1点とした。尺度の得点を算出するにあたって信頼性係数を求めた。その結果、クロンバックの α 係数は0.942となり、0.7を超える数値となった。そのためパラリンピックの感動に関する回答の4項目を尺度として使用することに一定の整合性があると判断できる。4項目の総和を算出し、合計点が高いほど東京2020パラリンピックの感動が高いというパラリンピック感動尺度を作成した。

尺度の統計情報は以下のとおりである。平均値7.03、標準偏差3.75、中央値4、最小値4、最大値16、歪度0.89、尖度-0.50。

パラリンピック感動尺度の度数分布表をみると、まったく感動しない人が約半数を占め、偏りが生じるため、パラリンピック感動尺度を次の3群に分けた。まったく感動しなかった4点を「感動ゼロ群」（1790人、51.1%）、残りを約半分に分け5点から10点を「感動中群」（944人、27.0%）、11点から16点を感動高群（766人、22.0%）とした。

(2) パラスポーツ接触意欲の尺度化

次に、パラスポーツ接触意欲の程度を調べるために以下の項目を「あてはまる」、「どちらかと

いばあてはまる」、「どちらかといばあてはまらない」、「あてはまらない」の4件法で尋ねた。

Q3S9 健常者と一緒にパラスポーツを体験したい

Q3S10 障がいのある人と一緒にパラスポーツを体験したい

Q3S11 競技場や体育館、スタジアムなどに行ってパラスポーツを観戦したい

Q3S12 パラスポーツを体験するイベントにボランティアや手伝いとして参加したい

パラスポーツ接触意欲を尺度化するために「あてはまる」を4点、「どちらかといばあてはまる」を3点、「どちらかといばあてはまらない」を2点、「あてはまらない」を1点とした。尺度の得点を算出するにあたって信頼性係数を求めた。その結果、クロンバックの α 係数は0.927となり0.7を超える数値となり、パラスポーツ接触意欲に関する回答の4項目を尺度として使用することに一定の整合性があると判断できる。4項目を算出し、合計得点が高いほどパラスポーツ接触意欲が高いというパラスポーツ接触意欲尺度を作成した。

尺度の統計情報は以下のとおりである。平均値 6.32、中央値 4、最小値 4、最大値 16、歪度 1.16、尖度 0.50。

パラスポーツ接触意欲尺度の度数分布をみるとまったく意欲がない人が約半数を占め、偏りが生じるため、パラスポーツ接触意欲尺度を次の3群に分けた。まったく意欲がない人4点を「意欲ゼロ群」(1814人、52.0%)、残りを半分に分け、5点～8点を「意欲中群」(959人27.4%)、9～16点を「意欲高群」(727人、21.0%)とした。

(3) パラリンピックの感動3群とパラスポーツ接触意欲3群のクロス集計

上記のパラリンピックの「感動3群」とパラスポーツ接触の「意欲3群」を用いてクロス集計シカイ2乗検定を行った(表3-1)。

表3-1 「感動3群」と「意欲3群」のクロス集計

		意欲ゼロ群	意欲中群	意欲高群	χ^2 値	p値
感動ゼロ群	(n=1790)	85.6%	23.7%	7.6%	2124.296	0.000
感動中群	(n=944)	11.4%	54.6%	31.3%		
感動高群	(n=766)	3.0%	21.7%	61.1%		
全体	(n=3500)	51.8%	27.4%	20.8%		

分析の結果、0.1%水準で有意な差が見られた。感動ゼロ群はパラスポーツ接触意欲がゼロ(まったくない)の人が大半であることがわかる。それに対して、「感動高群」は半数以上がパラスポーツ接触意欲が高いことがわかる。以上の結果から仮説1は立証された。

2. 仮説2「パラスポーツ接触意欲が高い人は意欲が低い人よりもパラスポーツに関する知識が多い」

(1) パラスポーツの知識の尺度化

パラスポーツの知識の程度を調べるために以下の項目を「だいたいのルールを知っている」、「ルールは知らないが、名称は知っている」、「知らない」の3件法で尋ねた。

- Q1S1 ボッチャ
- Q1S2 ゴールボール
- Q1S3 車いすバスケットボール
- Q1S4 車いすラグビー
- Q1S5 車いすテニス
- Q1S6 車いすフェンシング
- Q1S7 パラアーチェリー
- Q1S8 パラテコンドー
- Q1S9 シッティングバレーボール
- Q1S10 五人制サッカー（ブラインドサッカー）

上記を尺度化するため Q1S1～Q1S10 までを逆転項目処理を行った。「だいたいのルールを知っている」を3点、「ルールは知らないが、名称は知っている」を2点、「知らない」を1点とした。尺度の得点を算出するにあたって信頼性係数を求めた。その結果、クロンバックの α 係数は0.906となり0.7を超える数値となった。そのためパラスポーツ知識に関する回答の10項目を尺度として使用することに一定の整合性があると判断できる。10項目の総和を算出し、合計点数が高いほどパラスポーツの知識が高いというパラスポーツ知識尺度を作成した。

尺度の統計情報は以下のとおりである。平均値 15.14、中央値 15、最小値 10、最大値 30、歪度 0.91、尖度 0.90。

(2) パラスポーツ接触意欲3群とパラスポーツ知識尺度の一元配置分散分析

仮説1で用いたパラスポーツ接触意欲3群と上記の「パラスポーツ知識尺度」を用いてどの群に有意な差があるか一元配置分散分析を行った（表3-2、表3-3）。

表3-2 パラスポーツの接触意欲3群の記述統計

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	平均値の95% 信頼区間			
					下限	上限	最小値	最大値
意欲ゼロ群	1814	13.41	3.13	0.07	13.2	13.6	10.00	30.00
意欲中群	959	15.84	3.63	0.12	17.0	16.0	10.00	30.00
意欲高群	727	18.54	4.15	0.17	18.2	19.0	10.00	30.00

表 3-3 パラスポーツ接触意欲 3 群とパラスポーツ知識尺度の分散分析

パラスポーツ接触意欲尺度	n	パラスポーツに関する知識尺度の平均値	標準偏差
意欲ゼロ群	1814	13.41	3.13
意欲中群	959	15.84	3.63
意欲高群	727	18.54	4.15

F値543.707 p値0.000 *: p<0.05

表 3-2 はパラスポーツ接触意欲 3 群とパラスポーツ知識尺度との分散分析の結果である。その結果 0.1%水準で有意であり、「意欲ゼロ群」、「意欲中群」、「意欲高群」の 3 つの間に差があることが分かった。しかしどのカテゴリー間に差があるのかわからないため多重比較を行った。その結果 5%水準で 3 群の間に有意な差があることがわかった。「意欲ゼロ群」、「意欲中群」の 2 群と「意欲高群」を比べてみると、2 群よりも「意欲高群」の平均値が高いことがわかる。

このことから、パラスポーツ接触意欲が高い人はパラスポーツに関する知識が高いことがわかる。よって仮説 2 は立証された。

3. 考察

以上の結果から仮説 1 と仮説 2 は立証された。

ここから考えられることは、パラリンピックで感動した人は感動した後、パラスポーツに関して「体験してみたい」、「観戦してみたい」という意欲が高くなったのではないかと考えられる。そして意欲が高まることで、パラスポーツのルールや種類などを調べることで知識も多くなるのではないか。さらに知識が増えたことで改めてパラスポーツに接する機会が欲しいと意欲が高くなるような循環的な関係にあるのではないか。その起爆剤が感動なのではないだろうか。

しかし、現状 4 年ごとに開催されるパラリンピック以外でパラスポーツに接する機会があまりないように感じる。したがってパラスポーツをプレイしたり、プレイを見せてもらったり、子どもたちにもプレイしてもらおうなどのパラスポーツに触れる機会を増やすことができれば、パラスポーツに対しての関心が高まり、ひいては障がい者に対する意識や障がいの理解が変わる一步になるのではないだろうか。

第4章 東京2020パラリンピックを観戦しての感動体験と主体的援助行動

鈴木 まゆ子

本章では、東京2020パラリンピックを観戦しての感動体験と主体的援助行動の関連を検討する。

東京2020パラリンピックを開催した意義の1つとして、大会を観戦して感動した人が障がいを抱えている人をはじめとする社会的バリアに困っている人に対して手を差し伸べるための勇気を与えた、つまり東京2020パラリンピックを観戦して感動した人がそのような場面に遭遇した時に主体的援助行動を取ることを促したのではないかと考えた。ただ観戦したかどうかだけではなく、感動したかどうかに着目する。東京2020パラリンピックを観戦して感動をした人は、していない人よりも主体的援助行動を行うのではないだろうか。

仮説：東京2020パラリンピックを観戦して感動した人はしていない人よりも主体的援助行動を行う

1. 東京2020パラリンピックを観戦しての感動体験についての項目

東京2020パラリンピックを観戦しての感動体験について以下の4項目を尋ねた。

- Q3S5 東京2020パラリンピックの開会式・閉会式を視聴して感動した
- Q3S6 東京2020パラリンピックの試合を観戦して試合内容に感動した
- Q3S7 東京2020パラリンピックの試合を観戦して出場している選手に感動した
- Q3S8 東京2020パラリンピックの試合を観戦して大会を支えている人に感動した

それぞれの項目について「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」の4件法で回答を得た。さらに回答を逆転させ、「あてはまる」を3点、「どちらかといえばあてはまる」を2点、「どちらかといえばあてはまらない」を1点、「あてはまらない」を0点とした。

これらを合成変数にするために、クロンバックの α 係数の算出を行ったところ、 α 係数は0.942と0.7以上であるため、東京2020パラリンピックを観戦しての感動体験について回答する4項目を尺度として使用することに一定の内的整合性があると判断される。

こうして作成された東京2020パラリンピック感動体験尺度の記述統計は次の通りである。平均値3.03、標準偏差3.75、中央値0、最小値0、最大値12、歪度0.89、尖度-0.50。

2. 主体的援助行動についての項目

次に主体的援助行動について以下の10項目を尋ねた。

- Q7S1 お店の前の段差で車いすの人が困っていた
- Q7S2 視覚障がい者が点字ブロックの上に自転車が置いてあって困っていた
- Q7S3 聴覚障がい者が電車が止まった理由がわからず困っていた
- Q7S4 レストランで盲導犬を連れた人が入店を断られていた

- Q7S5 知的障がい者が子どもにからかわれていた
- Q7S6 電車やバスでマタニティマークをつけた人が目の前に立った
- Q7S7 ベビーカーを押した人がバスの乗り降りに困っていた
- Q7S8 優先席の前に荷物を持った高齢者が立っていた
- Q7S9 外国の人が目的地までの経路がわからず困っていた
- Q7S10 子どもがスーパーマーケットで親とはぐれて困っていた

それぞれの項目について、「自分から声をかけ、手助けをする」、「相手から声をかけられたら、手助けをする」、「特に何もしない」の3件法で尋ねた。さらに、回答を逆転させ、「自分から声をかけ、手助けをする」を2点、「相手から声をかけられたら、手助けをする」を1点、「特に何もしない」を0点とした。

これらを合成変数にするために、クロンバックの α 係数の算出を行ったところ、 α 係数は0.929と0.7以上であるため、主体的援助行動についての10項目を尺度として使用することに一定の内的整合性があると判断される。

こうして作成された主体的援助行動尺度の記述統計は次の通りである。平均値 12.45、標準偏差 5.91、中央値 14、最小値 0、最大値 20、尖度-0.73、歪度-0.33。

3. 相関分析

東京 2020 パラリンピック感動体験尺度と主体的援助行動尺度を用いて、仮説「東京 2020 パラリンピックを観戦して感動体験をした人はしていない人よりも主体的援助行動を行う」を検証する。2020 東京パラリンピック感動体験尺度と主体的援助行動尺度の相関分析を行った。

表 4-1 は東京 2020 パラリンピック感動体験尺度と主体的援助行動尺度の相関分析を行った結果である。相関係数は 0.310 と 1%水準で 2020 東京パラリンピックを観戦して感動体験をしたことと、主体的援助行動とのあいだに有意な弱い相関がみられた。

表 4-1 東京 2020 パラリンピック感動体験尺度と主体的援助行動尺度の相関分析

	平均	標準偏差	相関係数	p 値	
東京 2020 パラリンピック感動体験尺度 (n=3500)	3.03	3.75	0.31	0.00	**
主体的援助行動尺度 (n=3500)	12.45	5.91			

** : $p < 0.01$

4. 一元配置分散分析

前節で有意な弱い相関がみられたものの、東京 2020 パラリンピック感動体験尺度の度数分布をみると、東京 2020 パラリンピックを観戦して感動体験をまったくしていない人（0点）が半数以上おり、偏りが生じていると考えたため、東京 2020 パラリンピック感動体験尺度を改めて次の3群に分けた。0点は一つの群として、それ以上は累積度数が75%前後のところで等分されるように、0点を「感動低群」（1790人、51.1%）、1～6点を「感動中群」（944人、27.0%）、7～12点を「感動高群」（766人、21.9%）とする。どの群に差があるのかを分析するために、一元配

っている人でも周囲のサポートがあれば解決・乗り越えられる可能性を感じた人は、主体的に援助しようとする勇気を得たと考えられるのではないか。つまり、東京 2020 パラリンピックの開催は、大会を観戦して感動した人に、障がい者に限らず身近な場面で困っている人に対しての主体的援助行動を促す意義があったといえるのではないだろうか。

ただ、今回の調査では、東京 2020 パラリンピックを観戦して感動体験をしたことがきっかけで主体的援助行動を行うようになったのか、それ以前にも主体的援助行動をしていた人が感動しやすかったのかまでは分析できなかったため、今後調べる必要があると考えられる。

参考資料

東京都福祉保健局、「『心のバリアフリーに関する事例収集及び意識調査』の結果」

https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/kiban/machizukuri/kokoro_cyousa.html、

2023 年 3 月 1 日取得

第5章 パラスポーツ接触と主体的援助行動の関連

折戸 彦馬

本章では、パラスポーツ接触と主体的援助行動との関連について検討する。以下の仮説では、これまでに「する」や「みる」パラスポーツに関わった経験のある人は障がいのある人の不自由さを体験したり、身近で見る機会が多かったと推測し、その経験が普段の生活の中で障がいのある人や困っている状況にある人を見たときにその人に対して、主体的な援助行動につながると考えた。

仮説：パラスポーツに関わった経験が多い人は少ない人に比べて、主体的に援助行動を行う

1. パラスポーツ接触と主体的援助行動の検討

(1) パラスポーツ接触についての項目

パラスポーツ接触について尋ねた項目は以下の4項目である。

- Q3S1 パラスポーツを体験したことがある
- Q3S2 パラスポーツの試合をテレビやインターネットで見たことがある
- Q3S3 パラスポーツに関する記事を新聞や雑誌で読んだことがある
- Q3S4 競技場や体育館、スタジアムなどでパラスポーツを観戦したことがある

それぞれの項目について「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」の4件法で尋ねた。「あてはまる」を3点、「どちらかといえばあてはまる」を2点、「どちらかといえばあてはまらない」を1点、「あてはまらない」を0点とした。

総和を算出するにあたり、まず、信頼性係数を求めた。クロンバックの α 係数は、0.668 で0.7未満であったが、0.7に近い数値であったので、パラスポーツ接触度という合成変数として使用することとした。4項目の総和を算出し、合計点が高いほどパラスポーツ接触度が高いとする。

尺度の統計情報は次のとおりである。平均値 2.33、標準偏差 2.54、中央値 2、最小値 0、最大値 12、尖度 1.05、歪度 0.90 である。

(2) 主体的に援助行動を行うかについての項目

主体的に援助行動を行うかについて尋ねた項目は以下の10項目である。質問の作成にあたっては、東京都保健福祉局「心のバリアフリーに関する事例収集及び意識調査」を参考にした。

- Q7S1 お店の前の段差で車いすの人が困っていた
- Q7S2 視覚障がい者が点字ブロックの上に自転車が置いてあって困っていた
- Q7S3 聴覚障がい者が電車が止まった理由がわからず困っていた
- Q7S4 レストランで盲導犬を連れた人が入店を断られていた

- Q7S5 知的障がい者が子どもにからかわれていた
- Q7S6 電車やバスでマタニティマークをつけた人が目の前に立った
- Q7S7 ベビーカーを押した人がバスの乗り降りに困っていた
- Q7S8 優先席の前に荷物を持った高齢者が立っていた
- Q7S9 外国の人が目的地までの経路がわからず困っていた
- Q7S10 子どもがスーパーマーケットで親とはぐれて困っていた

それぞれの項目について、「自分から声をかけ、手助けをする」「相手から声をかけられたら、手助けをする」「特に何もしない」の3件法で尋ねた。さらに、「自分から声をかけ、手助けをする」を2点、「相手から声をかけられたら、手助けをする」を1点、「特に何もしない」を0点として、総和を算出しこれを主体的援助行動とする。そのため、点数が高い人ほど、主体的援助行動をよく行うことを意味する。

総和を算出するにあたり、まず、信頼性係数を求めた。クロンバックの α 係数は、0.929 で0.7以上であり、内的整合性があるという結果が得られたため、主体的援助行動度という合成変数として使用することとした。10項目の総和を算出し、合計点が高いほど主体的援助行動度が高いとする。

尺度の統計情報は次のとおりである。平均値 12.45、標準偏差 5.91、中央値 14、最小値 0、最大値 20、尖度-0.73、歪度-0.33 である。

2. クラメールの連関係数による分析

パラスポーツ接触の4項目と主体的援助行動の10項目をクロス集計し、クラメールの連関係数を使って2変数間の関連の強さを分析した。クラメールの連関係数とは、クロス集計における行要素と列要素の関連の強さを示す指標のことであり、0～1までの値を取る。カイ二乗検定では関連の強さを計ることはできないので、独立変数と従属変数の関連の強さを計りたいときにクラメールの連関係数を使用する。

表5-1にクラメールの連関係数をまとめた結果を示す。0.1から0.25を弱い関連がある項目として網掛けで示した。「パラスポーツの試合をテレビやインターネットで見たことがある」と主体的援助行動10項目、また「パラスポーツに関する記事を新聞や雑誌で読んだことがある」と主体的援助行動9項目のあいだで0.1%水準の弱い相関が見られ、仮説を支持する結果がえられた。一方、「パラスポーツを体験したことがある」および「競技場や体育館、スタジアムなどでパラスポーツを観戦したことがある」ではすべての項目で相関が見られず、仮説を支持する結果ではなかった。

なぜこのような差がみられたのか。相関が見られなかった「パラスポーツを体験したことがある」と「競技場や体育館、スタジアムなどでパラスポーツを観戦したことがある」の2つの項目はいわゆる直接的な体験である。一方、弱い相関の見られた「パラスポーツの試合をテレビやインターネットで見たことがある」と「パラスポーツに関する記事を新聞や雑誌で読んだことがある」の2つの項目は、いわゆる間接的な体験である。直接的な体験（体験イベント、試合観戦）は散発的な機会になりやすく体験頻度も高くないことが予測されるのに対して、間接体験は、直接的な体験に比べ体感できることは少ないが、テレビやインターネットのメディアを通じて気軽

に毎日見ることができる頻度の高さがあると考えられ、また記事やテレビでは障がい者自身の視点からパラスポーツや普段の生活について多くのことを知ることができると考えられる。そのため、直接的な体験に比べて頻度が多く継続性も高く、また障がい者自身の視点に触れることによって、間接的な体験のほうが弱い相関が見られ、仮説を支持する結果が得られたのではないかと考えられる。

表5-1 パラスポーツ接触と主体的援助行動のクラメールの連関係数

	車いす	視覚障がい者	聴覚障がい者	盲導犬	知覚障がい者	マナーマーク	ベビーカー	高齢者	外国人	子ども
体験あり	0.076***	0.076***	0.072***	0.080***	0.097***	0.084***	0.076***	0.072***	0.070***	0.068***
テレビで見る	0.186***	0.183***	0.182***	0.159***	0.173***	0.185***	0.176***	0.168***	0.174***	0.162***
記事を読む	0.165***	0.168***	0.174***	0.157***	0.169***	0.156***	0.154***	0.153***	0.184***	0.140***
観戦あり	0.075***	0.077***	0.057**	0.082***	0.089***	0.085***	0.073***	0.073***	0.066***	0.061***

***:P<0.001

** :P<0.01

パラスポーツ接触には上記のような差があるものの、次にパラスポーツ接触尺度を独立変数、主体的援助行動尺度を従属変数として仮説を検証する。また基礎集計段階で、主体的援助行動の平均値には男女差がみられたので、男女別に分析を行う。

3. 男女別のパラスポーツ接触と主体的援助行動の一元配置分散分析

まず男女合わせてパラスポーツ接触を3群に分けた。パラスポーツ接触がまったくない人が約4割いたので、残りの約6割を均等になるように中群と高群に分けた。0点を無群（1406人、40.2%）、1～3点を中群（993人、28.4%）、4～12点を高群（1101人、31.5%）とする。

次に男女別に分けた。男性のパラスポーツ接触の無群は700人（38.8%）、中群は491人（27.2%）、高群は613人（34.0%）である。また、女性のパラスポーツ接触の無群は706人（41.6%）、中群は502人（29.6%）、高群は488人（28.8%）である。男女別にどこの群に差があるのかを分析するためにそれぞれ一元配置分散分析を行った。

表5-2 男性のパラスポーツ接触（3群）の記述統計

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	平均値の95% 信頼区間			
					下限	上限	最小値	最大値
無群	700	8.99	6.84	0.26	8.48	9.50	0.00	20.00
中群	491	12.57	5.54	0.25	12.08	13.06	0.00	20.00
高群	613	14.11	4.97	0.20	13.72	14.50	0.00	20.00

表5-3 男性のパラスポーツ接触（3群）と主体的援助行動の分散分析

	度数	平均値	標準偏差
無群	700	8.99	6.84
中群	491	12.57	5.54
高群	613	14.11	4.97

F値 129.98 P値 .000

表5-4 女性のパラスポーツ接触（3群）の記述統計

	度数	平均値	標準偏差	平均値の95%信頼区間				
				標準誤差	下限	上限	最小値	最大値
無群	706	11.77	5.80	0.22	11.34	12.20	0.00	20.00
中群	502	14.20	4.62	0.21	13.79	14.60	0.00	20.00
高群	488	14.40	4.81	0.22	13.97	14.83	0.00	20.00

表5-5 女性のパラスポーツ接触（3群）と主体的援助行動の分散分析

	度数	平均値	標準偏差
無群	706	11.77	5.80
中群	502	14.20	4.62
高群	488	14.40	4.81

F値 49.10 P値 .000

この結果から、男女それぞれ0.1%水準で有意であり、高群・中群・無群の平均値には有意な差があるといえる。しかし、どのカテゴリー間に差があるかわからないため Tukey の多重比較を行った。その結果、男性では3群すべての間で0.1%水準の有意な差があったのに対して、女性では無群と中群、および無群と高群の間で0.1%水準の有意な差があることが分かった。

表5-3に示したように男性では無群・中群・高群の平均値に有意な差があったが、女性では中群と高群の平均値にほとんど差がなかった。このことから、男性はパラスポーツとの接触によって主体的援助行動を行う度合いに違いが出るが、女性は女性の中群が男性の高群よりも平均値が高く、全体的に主体的援助行動を行う度合いが男性に比べて高いため、違いが出ないということがわかった。

4. 考察

本章の仮説である「パラスポーツに関わった経験がある人はない人に比べて、主体的に援助行動を行う」は、間接的な体験では仮説を支持する結果が得られた。また、男女別に行った分散分析でも仮説を支持する結果がえられ、男性よりも女性のほうが主体的援助行動を行うという結果が得られた。

これらの結果から、障がいについてもっと知る機会が必要だと感じた。また、ただ知る機会を増やすだけではなく、直接的な体験と間接的な体験の両方を学ぶことのできる機会を増やす必要があると考えた。その理由として、今回の社会調査を通して分析の結果から直接的な体験で学ぶことと間接的な体験で学ぶことには違いがあると感じたからである。直接的な体験では、自分で体験したり実際に試合を見たりなど自分の主観で感じる事が多く、間接的な体験では、テレビや記事など比較的気軽に見たり聞いたりできるものであり、自分ではなく実際に障がいをもって生活している人の声を聞くことができる。

このことから、直接的な体験と間接的な体験のどちらかだけではなく、両方学ぶ必要があると考える。また、パラスポーツを経験し関わることで障害を持っている人や困っている状況にある人が普段はどのような生活を行っているのかを体験することにもつながる。そして、生活の大変さを知ることによって障害を持っている人や困っている状況にある人がいた時に自分から声をかけ手助けができるようになるのではないかと考えた。また人に手助けをできることは、自分が困ったときに人に助けを求めやすくなるのではないかと考えた。例えば、小・中学校での義務教育期間のうちにパラスポーツにかかわる機会を作ることができれば多くの子供たちが障がいについて知る機会が増える。そして、子供が障がいについて理解を深めることができれば、主体的に援助行動を行える人が増え、今まで以上に障がい者に限らず困っている人が過ごしやすい社会ができるのではないかと考えている。

参考資料

東京都福祉保健局、「『心のバリアフリーに関する事例収集及び意識調査』の結果」

https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/kiban/machizukuri/kokoro_cyousa.html、

2023年3月1日取得

第6章 文化資本と千葉県が取り組んでいる福祉政策への認知度・興味の関連

成田 吏玖

本章では、文化資本の高さと千葉県が取り組んでいる福祉政策の認知度および興味の関連について以下の仮説を検討する。

文化資本 (cultural capital) というものは、フランス出身の社会学者ピエール・ブルデュー (1930～2002) によって提唱された学術用語であり、長期間の訓練と蓄積によって得られた資格や能力、性向などが文化的な価値として表出化したものを指す。

この文化資本が高い人は様々な観点から知識を取り入れ視野を広げていくことが多いと考えたので、千葉県の福祉政策への興味関心が高いと考えた。

仮説1：文化資本が高い人は、そうでない人よりも千葉県が取り組んでいる福祉政策の認知度が高い

仮説2：文化資本が高い人は、そうでない人よりも千葉県が取り組んでいる福祉政策への興味関心が高い

1. 仮説1「文化資本が高い人は、そうでない人よりも千葉県が取り組んでいる福祉政策への認知度が高い」の検証

(1) 文化資本についての項目

文化資本の程度を調べるために、以下の6項目を「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」の4件法で尋ねた。

- Q5S1 クラシック音楽を聴く
- Q5S2 本（雑誌や漫画を除く）を読む
- Q5S3 家で新聞を読む
- Q5S4 美術館や美術の博覧会に行く
- Q5S5 家でお菓子を手作りする
- Q5S6 賭け事をする（パチンコ・スロット・競馬など）

文化資本を点数化するために、Q5S1 から Q5S5 までを逆転項目処理を行い、「あてはまる」を4点、「どちらかといえばあてはまる」を3点、「どちらかといえばあてはまらない」を2点、「あてはまらない」を1点とした。また、Q5S6 賭け事をする（パチンコ・スロット・競馬など）は「あてはまる」を1点、「どちらかといえばあてはまる」を2点、「どちらかといえばあてはまらない」を3点、「あてはまらない」を4点として総和を算出し、これを文化資本尺度とした。文化資本尺度の記述統計は表6-1のとおりである。

表6-1 文化資本尺度の記述統計

	平均値	標準偏差	中央値	最小値	最大値	歪度	尖度
文化資本尺度(n=3500)	12.8	3.34	13	6	24	0.519	-0.131

また、文化資本の点数が6点から10点を「文化資本低群」(984人、28.1%)、11点から14点を「文化資本中群」(1463人、41.8%)、15点から24点を「文化資本高群」(1053人、30.1%)とし、独立変数である文化資本を3群に分けた。

(2) 千葉県が取り組んでいる福祉政策への認知度の項目

千葉県が取り組んでいる福祉政策の認知度を調べるために、以下の10項目を尋ねた。

- Q6S1 千葉県手話言語条例
- Q6S2 障がいのある人等に関するマーク・標識
- Q6S3 ストラップ型ヘルプマーク・ヘルプカードの配布
- Q6S4 心の輪を広げる体験作文・障がい者週間のポスターの募集
- Q6S5 心の健康フェアの開催(ゲスト講演・相談コーナーなど)
- Q6S6 チーパス・スマイル(結婚から妊娠・出産、子育てまでの情報を提供する専用アプリ)
- Q6S7 千葉県ホームレス自立支援計画(ホームレスの人権擁護など)
- Q6S8 千葉県災害福祉支援チーム「DWA T」(大規模災害発生時に避難生活を送る要配慮者に対し福祉的支援を行うチーム)
- Q6S9 児童虐待防止に関するテレビ番組「コドモの未来をマモルTV～チバに生まれたみんなへ～」の放送
- Q6S10 障がいのある人の差別に関する相談窓口(地域相談員、広域専門指導員等を交えた話し合いなど)

それぞれの項目について、「知っている」「知らない」「知らないが、興味がある」の3件法で尋ねた。

(3) 文化資本3群と千葉県が取り組んでいる福祉政策の認知度のクロス集計表

3群に分けた文化資本と、千葉県が取り組んでいる福祉政策の認知度の10項目をクロス集計し、カイ二乗検定を行った(表6-2)。

表6-2 文化資本3群と千葉県が取り組んでいる福祉政策の認知度とのクロス集計表

		知っている	知らない	知らないが、 興味がある	χ^2 値	p値
障がいのある人等に関するマーク・標識	高群(n=984)	18.8%	61.9%	19.3%	87.071	<.001 ***
	中群(n=1463)	10.0%	75.9%	14.1%		
	低群(n=1053)	8.7%	77.2%	14.0%		
ストラップ型ヘルプマーク・カードの配布	高群(n=984)	17.0%	66.6%	16.4%	68.556	<.001 ***
	中群(n=1463)	10.7%	76.4%	12.9%		
	低群(n=1053)	6.8%	80.5%	12.7%		
チーパス・スマイル	高群(n=984)	20.3%	64.0%	15.7%	49.032	<.001 ***
	中群(n=1463)	14.1%	72.8%	13.1%		
	低群(n=1053)	11.0%	76.9%	12.1%		

分析の結果、「文化資本高群」は福祉政策に対して「知っている」と回答した人の割合がほかの2群に比べ高いことが分かった。また、「文化資本低群」は、福祉政策に対して「知らない」と回答した人の割合がほかの2群に比べ、高いということが分かった。これは、表6-2に掲載されている政策のみならず、その他すべての7つの政策においてこの傾向を見ることができたため、一部の表のみを掲載した。

つまり、文化資本が高い人のほうが低い人よりも、千葉県が取り組んでいる福祉政策の認知度が高いと言える。したがって、仮説の「文化資本が高い人は、そうでない人よりも千葉県が取り組んでいる福祉政策の認知度が高い」は立証された。

ただし、クロス集計では性別や年代といった要因は含まれていないので、より詳しく仮説を検証するためにロジスティック回帰分析を行う。(二項)ロジスティック回帰分析は、従属変数が二値でなければならないため、「知っている」「知らないが、興味がある」は「興味がある」に統合をし、「知らない」は「興味がない」に名称を変更する。それに伴って次の仮説2を立てた。

2. 仮説2「文化資本が高い人は、そうでない人よりも千葉県が取り組んでいる福祉政策への興味関心が高い」の検証

(1) ロジスティック回帰分析

(二項)ロジスティック回帰分析にあたって、独立(統制)変数として性別、年齢層、文化資本尺度、大卒、図書館年1回以上利用を用いる。

次のように、ダミー変数を作成した。性別は女性=1、男性=0とした。年齢層は10歳刻みとして、それぞれの年齢層を20歳代=1とその他=0、30歳代=1とその他=0、40歳代=1とその他=0、50歳代=1とその他=0として、20歳代~50歳代を投入した(60歳代を基準)。文化資本尺度はZスコア化した。Zスコアは、平均値0、標準偏差を1とする標準化されたスコアである。大卒および図書館年1回以上利用は、あてはまる=1、あてはまらない=0とした。

結果は表6-3~6-5のとおりである。

表6-3 「手話言語条例」「障がいのある人等に関するマーク・標識」「ヘルプマーク・ヘルプカードの配布」「体験作文・障がい者週間のポスターの募集」のロジスティック回帰分析の結果

	千葉県手話言語条例			障がいのある人等に関する マーク・標識			ストラップ型ヘルプマーク ヘルプカードの配布			心の輪を広げる体験作文 障がい者週間のポスターの募集						
	β	Exp(β)	p	β	Exp(β)	p	β	Exp(β)	p	β	Exp(β)	p				
(定数)	-3.243	0.039		-2.421	0.089		-2.553	0.079		-3.293	0.037					
性別(女性=1)	0.008	0.992	0.930	-0.129	1.138	0.109	-0.384	1.468	<.001	***	0.054	0.948	0.577			
20代(ref.60代)	0.655	1.925	<.001	***	0.503	1.653	0.001	**	0.650	1.915	<.001	***	0.685	1.983	<.001	***
30代(ref.60代)	0.486	1.625	<.001	***	0.346	1.413	0.006	**	0.507	1.660	<.001	***	0.427	1.533	0.005	**
40代(ref.60代)	0.478	1.613	<.001	***	0.314	1.369	0.007	**	0.410	1.508	0.001	**	0.424	1.528	0.002	**
50代(ref.60代)	0.022	1.022	0.883		0.029	1.030	0.816		0.049	1.050	0.714		-0.032	0.968	0.836	
Z:文化資本尺度	0.108	1.436	<.001	***	0.096	1.380	<.001	***	0.095	1.376	<.001	***	0.099	1.393	<.001	***
大卒 (=1)	-0.194	0.823	0.037		-0.122	0.885	0.134		-0.058	0.944	0.489		-0.125	0.882	0.195	
図書館年1回 以上利用 (=1)	0.316	1.371	0.002	**	0.371	1.449	<.001	***	0.343	1.410	<.001	***	0.441	1.554	<.001	***
N	3500			3500			3500			3500						
p値	0.000			0.000			0.000			0.000						
Nagelkerke R ² 乗	0.051			0.053			0.066			0.052						
HL	0.031			0.443			0.331			0.720						

***: p<.001 ** : p<.01

表6-4 「心の健康フェア」「チーパス・スマイル」「ホームレス自立支援計画」
「千葉県災害福祉支援チーム「DWA T」」のロジスティック回帰分析の結果

	心の健康フェアの開催			チーパス・スマイルアプリ			千葉県ホームレス自立支援計画			千葉県災害福祉支援チーム「DWA T」						
	β	Exp(β)	p	β	Exp(β)	p	β	Exp(β)	p	β	Exp(β)	p				
統制変数	-3.070	0.046		-2.26	0.104		-3.280	0.038		-2.905	0.055					
性別(女性=1)	-0.710	1.074	0.428	-0.404	1.449	<.001	***	0.017	0.982	0.857	0.014	0.986	0.872			
20代(ref.60代)	0.603	1.828	<.001	***	0.874	2.396	<.001	***	0.628	1.874	<.001	***	0.470	1.599	0.004	**
30代(ref.60代)	0.390	1.447	0.006	**	0.829	2.290	<.001	***	0.422	1.525	0.005	**	0.294	1.342	0.031	
40代(ref.60代)	0.340	1.405	0.009	**	0.497	1.644	<.001	***	0.455	1.577	0.001	**	0.196	1.216	0.120	
50代(ref.60代)	0.005	1.005	0.970		0.069	1.071	0.600		-0.008	0.992	0.958		-0.108	0.897	0.432	
Z:文化資本尺度	0.110	1.446	<.001	***	0.075	1.286	<.001	***	0.100	1.397	<.001	***	0.105	1.423	<.001	***
大卒 (=1)	-0.197	0.821	0.030		0.051	1.052	0.527		-0.154	0.857	0.109		-0.092	0.912	0.302	
図書館年1回以上利用 (=1)	0.389	1.476	<.001	***	0.337	1.401	<.001	***	0.453	1.573	<.001	***	0.284	1.328	0.003	**
N	3500			3500			3500			3500						
p値	0.000			0.000			0.000			0.000						
NagelkerkeR ² 乗	0.057			0.072			0.053			0.047						
HL	0.046			0.878			0.429			0.087						

***: p<.001 **:p<.01

表6-5 「児童虐待防止テレビ番組放送」「障がい者差別相談窓口」
のロジスティック回帰分析の結果

	児童虐待防止テレビ番組放送			障がい者差別相談窓口				
	β	Exp(β)	p	β	Exp(β)	p		
(定数)	-2.840	0.058		-2.929	0.053			
性別(女性=1)	-0.094	1.099	0.305	-0.009	1.009	0.918		
20代(ref.60代)	0.650	1.915	<.001	***	0.612	1.845	<.001	***
30代(ref.60代)	0.435	1.545	0.003	**	0.376	1.456	0.007	**
40代(ref.60代)	0.384	1.469	0.004	**	0.332	1.393	0.010	*
50代(ref.60代)	0.023	1.024	0.873		-0.036	0.964	0.799	
Z:文化資本尺度	0.084	1.324	<.001	***	0.099	1.391	<.001	***
大卒 (=1)	-0.152	0.859	0.098		-0.254	0.776	0.005	**
図書館年1回以上利用 (=1)	0.410	1.507	<.001	***	0.531	1.701	<.001	***
N	3500			3500				
p値	0.000			0.000				
NagelkerkeR ² 乗	0.044			0.060				
HL	0.408			0.132				

***: p<.001 **:p<.01 *:p<.05

以上の結果をまとめると、まず「千葉県手話言語条例」「心の健康フェア」「千葉県災害福祉チーム DWAT」については Hosmer-Lemeshow 検定でカイ二乗値が 10%未満であったため、この 3 項目のモデルは適合しなかった。したがって、以下ではそれ以外の 7 項目について述べる。

7 項目すべての項目に共通して(60代と比較した)「20代」、「30代」、「40代」、「Zスコア:文化資本尺度」、「図書館年1回以上利用」が有意だった。また、7 項目すべての項目において「20代」が福祉政策への興味に最も強い影響を与えることが分かった。さらに、「チーパス・スマイル」と「ストラップ型ヘルプマーク・ヘルプカードの配布」の 2 項目に関してのみ、男性よりも女性の方が興味が高いことが分かった。これらの変数がなぜ有意だったのだろうか。

20代~40代が50代や60代より興味が高いのは、7項目の福祉政策の対象になる可能性が低く知る機会が少ないのではないかと考えることができる。

文化資本が高い人ほど興味が高い要因として、様々な観点から知識を取り入れ視野を広げていくからと考えられる。

図書館年1回以上利用の人が興味が高い要因として、図書館利用する人は、調べたいこと・知りたいことがあるという情報取得の意欲が高いことが考えられる。また、図書館は公共の建物であり、その自治体が行っている政策の情報が多く入ってくる事が考えられ、そこで目にする事が多くあることが考えられる。

「チーパス・スマイル」アプリでは、買い物をした店舗によってさまざまな特典を受けることができるクーポンが配信されている。女性のほうが興味が高いのは、生活用品や食材の購入、家族での旅行や外食の際にレジで支払いを行うのは女性のほうが多いからと考えられる。「ストラップ型ヘルプマーク・ヘルプカードの配布」は、障がい等により、支援や配慮を必要としていることが外見から分からない方などが、周囲の人に支援等を必要としていることを知らせるものである。女性のほうが興味が高いのは妊娠初期の人でも希望をすれば利用ができるからと考えられる。

3. 考察

改めて結果を確認すると、クロス集計では「文化資本が高い人は、そうでない人よりも千葉県が取り組んでいる福祉政策への興味関心が高い」といった仮説は立証された。次に、性別や年代といった要因も加えた検証のために、ロジスティック回帰分析をおこなった。ロジスティック回帰分析の結果、60歳代の人と比べると20代が約1.9倍高く、30代、40代、文化資本、図書館年1回以上利用はそれぞれ1.3~1.4倍、福祉政策への興味を高めることが分かった。

今回の調査で千葉県の福祉政策を「知っている」「知らない」「知らないが、興味がある」と分類して調査を行ったが、「知らない」と回答した人がどの年代にも半数以上いた。この低認知度の問題を解決するためには、福祉政策を多くの人に知ってもらう機会を増やすことが大事だと考える。例えば、「チーパス・スマイル」アプリは県民への周知が十分でないという課題があり、県は広報を行い、利用者の増加を図っている。さらに利用者を増加させるためにも、お得なクーポンを配信してくれる協賛店を増加して行くといった活動もよいのではと考えた。とくに文化資本が高い人や図書館利用者は様々な観点から知識を取り入れ視野を広げていくことが多いと考えられるため、県の政策を含め多くの知識を取り入れると考えられる。福祉政策を多くの人に知ってもらうことができれば障がいを持った人や子育て世代の人、どんな人でも住むことができる優しい街に変わることができ、千葉県は今よりもっと住みやすくいい場所になっていくであろう。

参考文献

P. ブルデュー、1990『ディスタンクシオン1・2』（石井洋二郎訳）藤原書店

千葉県「ヘルプカードの配布について」<https://www.pref.chiba.lg.jp>（取得 2023/03/09）

千葉県「千葉県手話言語条例について」<https://www.pref.chiba.lg.jp/shoufuku/shuwajourei/>
（取得 2023/03/10）

千葉県「チーパス・スマイル」<https://www.pref.chiba.lg.jp/kosodate/chipass-smile/>（取得 2023/03/11）

千葉県健康福祉部子育て支援課「子育て家庭優待カード「チーパス」って何？」<https://chipass-smile.pref.chiba.lg.jp>（取得 2023/03/09）

第7章 千葉県の福祉政策と多様性理解との関連

守屋 大地

本章では、千葉県が取り組んでいる福祉政策への関心ならびに、多様性理解の度合いについて検討する。

テーマ設定の理由としては、以前からヤングケアラー問題やひとり親家庭の生活に対する支援のあり方に対して関心が高く、支援の拡充のためにはまずは世間一般にこのような多様な生活課題を抱える人たちに対しての認知度が高まる必要があると考えていた。今回の調査では、千葉県に限定してはいるものの、自治体の福祉政策に関心が高い人は多様性理解の度合いも高いと仮説を立て分析を行った。

仮説：千葉県が取り組んでいる福祉政策に関心が高い人は、多様性理解が高い

1. 仮説の検討

(1) 千葉県が取り組んでいる福祉政策への関心についての項目

千葉県が取り組んでいる福祉政策への関心について尋ねた項目は、以下の10項目である。

- Q6S1 千葉県手話言語条例
- Q6S2 障害のある人等に関するマーク・標識
- Q6S3 ストラップ型ヘルプマーク・ヘルプカードの配布
- Q6S4 心の輪を広げる体験作文・障がい者週間のポスターの募集
- Q6S5 心の健康フェアの開催（ゲスト講演・相談コーナーなど）
- Q6S6 チーパス・スマイル（結婚から妊娠・出産、子育てまでの情報を提供する専用アプリ）
- Q6S7 千葉ホームレス自立支援計画（ホームレスの人権擁護など）
- Q6S8 千葉県災害支援チーム「DWA T」（大規模災害時に避難生活を送る要救助者に対し福祉的支援を行うチーム）
- Q6S9 児童虐待防止に関するテレビ番組「コドモの未来をマモルTV～千葉に生まれたみんなへ～」の放送
- Q6S10 障がいのある人の差別に関する相談窓口（地域相談員、広域専門指導員等を交えた話し合いなど）

それぞれの項目について、「知っている」、「知らない」、「知らないが、興味がある」の3件法で尋ねた。

表 7-1 「手話言語条例」単純集計結果

	度数	%
知っている	96	2.7
知らない	2851	81.5
知らないが、興味がある	553	15.8
合計	3500	100.0

表 7-2 「チーパススマイル」単純集計結果

	度数	%
知っている	528	15.1
知らない	2496	71.3
知らないが、興味がある	476	13.6
合計	3500	100.0

単純集計の結果、どの項目においても「知らない」と回答する人が約7～8割を占めた（一例として表7-1、表7-2。その他は本報告書64-65頁に記載）。そのため、以下の仮説検証には「知っている」「知らないが、興味がある」と答えた人を「知っている、知らないが興味がある」に統合し、「知らない」と答えた人を「知らない、興味がない」と再カテゴリー化した。

（2）多様性理解についての項目

多様性理解の高さを測るために、多様な生活上の課題を抱える人に対する認知度について尋ねた項目は、以下の10項目である。

- Q8S1 ヤングケアラー（家族のケアをする若年者）
- Q8S2 外国籍の住民
- Q8S3 L G B T Q（性的マイノリティ）
- Q8S4 元受刑者
- Q8S5 認知症高齢者の家族
- Q8S6 ひとり親
- Q8S7 生活保護受給者
- Q8S8 身体障がい者（視覚、聴覚、肢体不自由）
- Q8S9 精神障がい・知的障がい者
- Q8S10 非正規雇用者

それぞれの項目について、「二つ以上思い浮かぶ」、「一つだけ思い浮かぶ」、「思い浮かばない」の3件法で尋ねた。

表 7-3 「多様な生活上の課題/LGBTQ」

	度数	%
二つ以上思い浮かぶ	759	21.7
一つだけ思い浮かぶ	829	23.7
思い浮かばない	1912	54.6
合計	3500	100

単純集計の結果、多様な生活上の課題が「思い浮かばない」と回答する人が約半数かそれ以上を占める項目が7項目ほど存在した（一例として、表7-3。その他は本報告書67-68頁に記載）。

そのため、以下の仮説検証には「二つ以上思い浮かぶ」「一つだけ思い浮かぶ」と答えた人を「思い浮かぶ」に統合し、「思い浮かばない」と答えた人はそのまま用いた。

(3) 千葉県が取り組む福祉政策への関心と多様な生活上の課題理解のクロス集計

千葉県が取り組む福祉政策への関心 10 項目と、多様な生活上の課題理解の 10 項目をクロス集計しカイ二乗検定を行った（表 7-4、表 7-5）。「知っている、知らないが興味がある」が少なかった「手話言語条例」（表 7-4）と、最も多かった「チーパススマイル」（表 7-5）の 2 つの表のみを掲載した。

表 7-4 「手話言語条例」と多様な生活上の課題のクロス集計

		思い浮かばない	思い浮かぶ	X ² 値	p 値	
ヤングケアラー	知らない、興味がない (n=2851)	50.9%	49.1%	54.479	0.000	***
	知っている、知らないが興味がある (n=649)	34.8%	65.2%			
外国籍	知らない、興味がない (n=2851)	55.0%	45.0%	47.272	0.000	***
	知っている、知らないが興味がある (n=649)	40.1%	59.9%			
LGBTQ (性的マイノリティ)	知らない、興味がない (n=2851)	57.3%	42.7%	45.885	0.000	***
	知っている、知らないが興味がある (n=649)	42.7%	57.3%			
元受刑者	知らない、興味がない (n=2851)	57.0%	43.0%	36.705	0.000	***
	知っている、知らないが興味がある (n=649)	43.9%	56.1%			
認知症高齢者の家族	知らない、興味がない (n=2851)	43.4%	56.6%	27.278	0.000	***
	知っている、知らないが興味がある (n=649)	32.2%	67.8%			
ひとり親	知らない、興味がない (n=2851)	41.2%	58.8%	33.160	0.000	***
	知っている、知らないが興味がある (n=649)	29.0%	71.0%			
生活保護受給者	知らない、興味がない (n=2851)	54.5%	45.5%	45.351	0.000	***
	知っている、知らないが興味がある (n=649)	39.9%	60.1%			
身体障がい者（視覚、聴覚、肢体不自由）	知らない、興味がない (n=2851)	40.4%	59.6%	34.076	0.000	***
	知っている、知らないが興味がある (n=649)	28.0%	72.0%			
精神障がい・知的障がい者	知らない、興味がない (n=2851)	46.7%	53.3%	43.091	0.000	***
	知っている、知らないが興味がある (n=649)	32.5%	67.5%			
非正規雇用	知らない、興味がない (n=2851)	51.7%	48.3%	39.570	0.000	***
	知っている、知らないが興味がある (n=649)	38.1%	61.9%			

*** : p < 0.001

表7-5 「チーパス・スマイル（結婚から妊娠・出産、子育てまでの情報を提供する専用アプリ）」と多様な生活上の課題のクロス集計

			思い浮かばない	思い浮かぶ	X ² 値	p値	
ヤングケアラー	知らない、興味がない	(n=2496)	53.6%	46.4%	115.686	0.000	***
	知っている、知らないが興味がある	(n=1004)	33.6%	66.4%			
外国籍	知らない、興味がない	(n=2496)	56.9%	43.1%	74.514	0.000	***
	知っている、知らないが興味がある	(n=1004)	40.7%	59.3%			
LGBTQ (性的マイノリティ)	知らない、興味がない	(n=2496)	59.3%	40.7%	77.758	0.000	***
	知っている、知らないが興味がある	(n=1004)	42.9%	57.1%			
元受刑者	知らない、興味がない	(n=2496)	58.7%	41.3%	58.831	0.000	***
	知っている、知らないが興味がある	(n=1004)	44.4%	55.6%			
認知症高齢者の家族	知らない、興味がない	(n=2496)	46.2%	53.8%	86.860	0.000	***
	知っている、知らないが興味がある	(n=1004)	29.1%	70.9%			
ひとり親	知らない、興味がない	(n=2496)	44.0%	56.0%	95.812	0.000	***
	知っている、知らないが興味がある	(n=1004)	26.2%	73.8%			
生活保護受給者	知らない、興味がない	(n=2496)	56.3%	43.8%	68.131	0.000	***
	知っている、知らないが興味がある	(n=1004)	40.8%	59.2%			
身体障がい者（視覚、聴覚、肢体不自由）	知らない、興味がない	(n=2496)	42.7%	57.3%	78.850	0.000	***
	知っている、知らないが興味がある	(n=1004)	26.6%	73.4%			
精神障がい・知的障がい者	知らない、興味がない	(n=2496)	49.4%	50.6%	99.236	0.000	***
	知っている、知らないが興味がある	(n=1004)	30.9%	69.1%			
非正規雇用	知らない、興味がない	(n=2496)	53.1%	46.9%	52.543	0.000	***
	知っている、知らないが興味がある	(n=1004)	49.2%	50.8%			

*** : p<0.001

分析の結果、表7-4、表7-5以外の各項目においても福祉政策に対して「知らない、興味がない」人のほうが、多様な生活上の課題理解について「思い浮かばない」を選択する割合が高かった。それに対して、福祉政策に対して「知っている、知らないが興味がある」と回答した人のうち半数以上が10項目すべての多様な生活上の課題に対して「思い浮かぶ」と回答した。このことからわかるように、福祉政策に興味がある人は、そうでない人よりも多様な生活上の課題理解の度合いが高いということが立証された。

2. 考察

仮説「千葉県が取り組んでいる福祉政策に興味がある人は、そうでない人よりも多様性理解に対して関心が高い」において、千葉県が取り組んでいる福祉政策10項目と多様性理解で使用した多様な生活上の課題10項目をクロス集計した結果、どの項目間においても有意な差があるということがわかった。

「知っている、知らないが興味がある」と回答した人は、多様な生活上の課題理解のどの項目でもどんなに低い値でも50%を下回ることはなく、最大で70%以上の人が生生活上の課題が思い浮かぶとしている。このことから、福祉政策について知っていること、もしくは知らなくても興味があることにより、日常生活を送っていくうえで自分たちの生活だけでなく、課題を持つ人々の生活に目を向けることが多いのではないかと考える。福祉政策について「知っている、知らないが興味がある」と回答した人は日常生活についての課題の見え方が「知らない、興味がない」と回答した人とは違うことが考えられる。

また、昔から取り上げられ比較的知れ渡っており、法制度が確立されている「身体障がい者」、

「精神障がい・知的障がい者」、「ひとり親」に関しては、千葉県の福祉政策を「知らない、興味がない」と回答した人でさえも課題は「思い浮かぶ」人が半数を超えていた。それに対して、近年取り上げられ特化した法律ないし条例が整備されていない「ヤングケアラー」、「外国籍」、「LGBTQ」、「元受刑者」等の新しい生活上の課題に関しては、課題が「思い浮かばない」と回答する人が半数を超えている。

このことから、千葉県の福祉政策を「知らない、興味がない」と回答した人も課題が思い浮かび、支援の必要性を感じる人を増やすためにも、まずは地元の広域自治体（千葉県）が行っている福祉政策の理解を広めていくことが必要なのではないだろうか。

つまり、福祉政策を「知らない、興味がない」と回答した人も多様な生活上の課題が思い浮かぶようになることで、自治体の福祉政策の必要性を理解する人が増大し、支援を必要としている人に支援がいきわたりやすくなり、社会全体の多様性理解の度合いもさらに高くなっていくと考えられる。また、千葉県の福祉政策を「知っている、知らないが興味がある」と回答した人であっても「ヤングケアラー」、「外国籍」、「LGBTQ」等の新しい生活上の課題を「思い浮かぶ」人はまだまだ多くはないため、そうした新しい課題にも目を向け地元の広域自治体（千葉県）が取り組んでいることについて知る必要があると考える。

第8章 精神障がい者の生活上の課題発見を規定する要因の検討

渡辺 由希

1. 現代社会を生きる精神障がい者

内閣府による令和4年版の障害者白書によると、身体障害者（身体障害児を含む）は436万人、知的障害者（知的障害児を含む）は109万4千人、精神障害者は419万3千人となっている。

厚生労働省では平成29年度より、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進・支援事業」を立ち上げ、各都道府県などに対し経済的・技術的支援を行っている。この事業では、従来の地域包括ケアシステムと同様に、精神障がいの程度や有無にかかわらず、誰もが安心して暮らすことができるような地域の支援体制の構築を目指している。精神障がい者が地域生活を営む上で、周囲の人々の理解（疾患に対する理解、疾患を抱えて生きることの理解など）は必要不可欠と考えられる。その理解には、人々が精神障がい者がどのような困難を抱えているかを正しく知ろうとする態度が重要となる。

2. 本研究の目的

以上より、本研究では精神障がい者の生活上の課題発見を従属変数とし、パラスポーツといった障がい者の社会参加活動、ボランティア活動への意欲や主体的援助行動といった利他的行動の程度等を独立変数とし、どのような要因が影響しているかを明らかにすることを目的とする。

3. 方法

本研究では、以下の質問項目を分析に用いる。

Q3S5～Q3S8 東京2020パラリンピックに関する項目（4項目）

Q3S9～Q3S11 パラスポーツ観戦・体験に関する項目（3項目）

Q3S12～Q3S20 ボランティア活動に関する項目（9項目）

Q7S1～Q7S10 主体的な援助行動に関する項目（10項目）

Q8S9 精神障がい者が抱える生活上の課題に関する項目（1項目）

4. 結果

（1）クロス集計

まず、精神障がい者の生活上の課題に関する項目について、クロス集計を行った。以下にその結果を示す。

表8-1 精神障がい者の生活上の課題を思い浮かぶか（男女別）

		生活上の課題/精神障がい者			χ^2 値	p
		二つ以上 思い浮かぶ	一つだけ 思い浮かぶ	思い 浮かばない		
男性	(n=1804)	28.0%	24.7%	47.3%	15.87	***
女性	(n=1696)	31.0%	28.4%	40.6%		

***: $p < .001$

表 8-1 より、男性より女性のほうがより多くの生活上の課題を思い浮かぶことが明らかとなった ($\chi^2(2, N=3500)=15.87, p<.001$)。

表 8-2 精神障がい者の生活上の課題を思い浮かぶか (男女・年代別)

		生活上の課題/精神障がい者			χ^2 値	p
		二つ以上 思い浮かぶ	一つだけ 思い浮かぶ	思い 浮かばない		
男性 20 代	(n=99)	22.2%	27.3%	50.5%	39.98	**
男性 30 代	(n=368)	30.2%	22.3%	47.6%		
男性 40 代	(n=617)	27.4%	23.2%	49.4%		
男性 50 代	(n=398)	24.6%	27.9%	47.5%		
男性 60 代	(n=322)	32.6%	25.8%	41.6%		
女性 20 代	(n=254)	35.4%	26.4%	38.2%		
女性 30 代	(n=342)	31.9%	29.2%	38.9%		
女性 40 代	(n=405)	32.8%	25.2%	42.0%		
女性 50 代	(n=370)	30.0%	27.8%	42.2%		
女性 60 代	(n=325)	25.5%	33.5%	40.9%		

** : $p<.01$

表 8-2 より、20～50 代では男性より女性のほうがより多くの生活上の課題を思い浮かぶことが明らかとなった ($\chi^2(18, N=3500)=39.98, p<.01$)。特に 20 代では、男性の半数が「思い浮かばない」と回答しているのに対し、女性は 4 割弱が「思い浮かばない」と回答しており、1 割以上の差が見られた。

一方、60 代では女性よりも男性のほうが多くの課題を思い浮かぶことが明らかとなった。

表 8-3 精神障がい者の生活上の課題を思い浮かぶか (未既婚別)

		生活上の課題/精神障がい者			χ^2 値	p
		二つ以上 思い浮かぶ	一つだけ 思い浮かぶ	思い 浮かばない		
未婚	(n=1269)	28.4%	25.7%	45.9%	2.64	n. s.
既婚 (離婚・死別含)	(n=2231)	30.0%	26.9%	43.0%		

表 8-3 より、未婚者と既婚者で割合に違いはあったものの、有意差は見られなかった ($\chi^2(2, N=3500)=2.64, n. s.$)。

表8-4 精神障がい者の生活上の課題を思い浮かぶか（子どもの有無別）

		生活上の課題/精神障がい者			χ^2 値	p
		二つ以上 思い浮かぶ	一つだけ 思い浮かぶ	思い 浮かばない		
同居している子どもがいる	(n=1273)	31.1%	26.5%	42.4%		
同居はしていないが 子どもはいる	(n=438)	28.3%	33.1%	38.6%	17.16	**
子どもはいない	(n=1789)	28.6%	24.9%	46.6%		

**：p<.01

表8-4より、同居している子どもがいる人は、そうでないひとに比べて、多くの生活上の課題を思い浮かぶことが明らかとなった($\chi^2(4, N=3500)=17.16, p<.01$)。同居はしていないが子どもはいる人と子どもがいない人では、「思い浮かばない」の割合に1割近くの差が見られた。

(2) 精神障がい者の生活上の課題が思い浮かぶ要因の検討

どのような変数が精神障がい者の生活上の課題が思い浮かぶことに影響しているかを検討するため、パス解析を行った。用いた変数は①東京2020パラリンピックに関する項目(4項目)、②パラスポーツ観戦・体験に関する項目(3項目)、③主体的な援助行動に関する項目(10項目)、④ボランティア活動に関する項目(9項目)、そして⑤精神障がい者の生活上の課題に関する項目(1項目)である。

分析に先立ち、それぞれ合成変数を作成した。

- ①東京2020パラリンピックに関する項目を加算し、東京2020パラリンピックへの感動尺度($\alpha=.94$)とした。
- ②パラスポーツ観戦・体験に関する項目を加算し、パラスポーツ観戦・体験への意欲尺度($\alpha=.91$)とした。
- ③主体的な援助行動に関する項目を加算し、主体的援助行動尺度($\alpha=.93$)とした。
- ④ボランティア活動に関する項目を加算し、ボランティア活動への意欲尺度($\alpha=.97$)とした。

ここで変数間の関係を整理したい。①および②のパラリンピック、パラスポーツに関する項目は、障がい者の社会参加に共通する項目という点から、④ボランティア活動への参加意欲に影響を与えている可能性が考えられる。③の主体的な援助行動の項目は、「お店の前の段差で車いすの人が困っていた」などの場面に遭遇したときの行動を「自分から声をかけ、手助けをする」、「相手から声をかけられたら、手助けをする」、「特に何もしない」の3件法で尋ねている。これらの変数を自ら利他的行動をとるか否かを測定するものと考えれば、やはり④への影響が想定される。

したがって、分析では④ボランティア活動への参加意欲を媒介変数としたパス解析を行う。モデル図は以下の通りである。

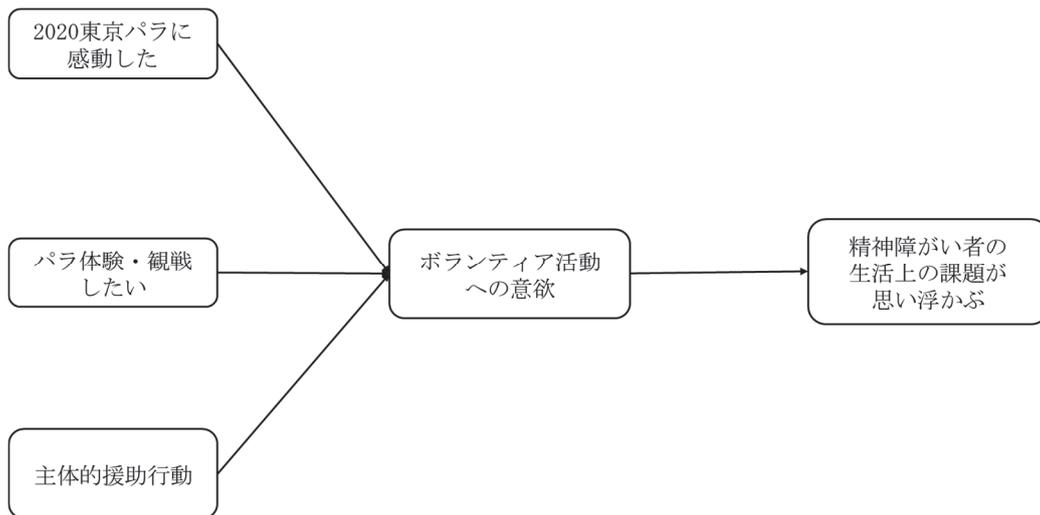
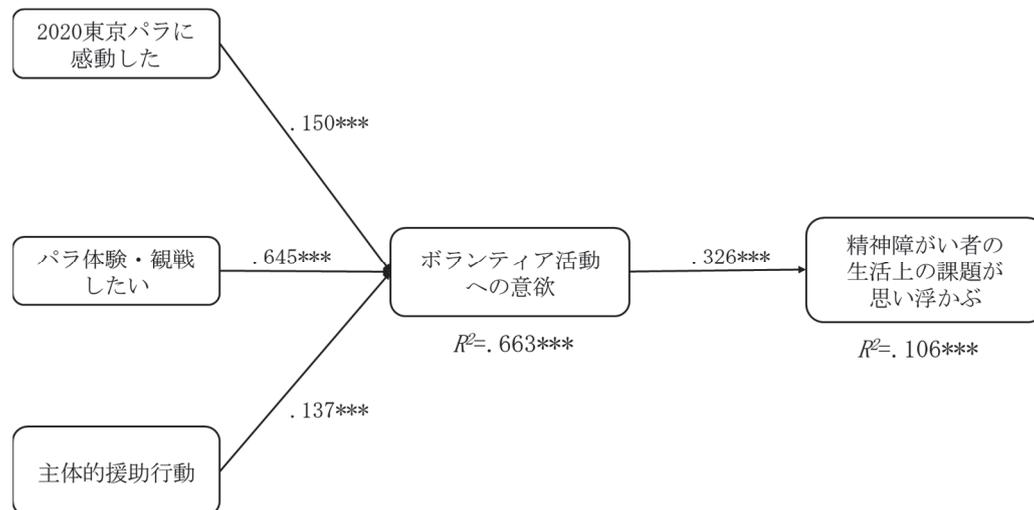


図8-1 モデル図

上記①～④の変数の影響力をパス解析によって検討した。結果を以下に示す。



: $p < .01$, *: $p < .001$

図8-2 パス図

ボランティア活動への意欲を高める要因として、2020 東京パラリンピックへの感動尺度、パラスポーツ観戦・体験への意欲尺度、主体的援助行動尺度のいずれも有意に影響を与えていたことが明らかとなった。決定係数は 0.663 となり、モデルの当てはまりも比較的良いと言えよう。3つの変数の中で最も影響力が高かったのは、パラスポーツ観戦・体験への意欲尺度であった。パラスポーツを体験・観戦したいと思う人ほど、ボランティア活動の意欲が高まることが明らかとなった。2020 東京パラリンピックへの感動尺度、主体的援助行動尺度の標準化回帰係数は有意であったものの、値は低かった。

精神障がい者の生活上の課題が思い浮かぶ要因として、ボランティア活動への意欲は有意に影響を与えていたことが明らかとなった。したがって、ボランティア活動への意欲が高い人ほど、精神障がい者の生活上の課題が思い浮かぶことが明らかとなった。ただし、有意であったものの決定係数は 0.106 と低かった。

引用文献

厚生労働省 「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築について」

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/chiikihoukatsu.html>

(取得 2023/03/28)

内閣府 「参考資料 障害者の状況」

https://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/r04hakusho/zenbun/siryu_01.html

(取得 2023/03/28)

第9章 身近な障がい者の存在とパラスポーツ接触経験および接触意欲の関連

本多 敏明

本章では、2018年実施の前回調査（本多 2019）と同様に、身近な障がい者の有無がパラスポーツ接触経験およびパラスポーツ接触意欲にどのような違いをもたらすかを分析する。

1. 身近な障害者4群の分類と基礎集計

「身近な障害者の有無」を次の手順で4群に分けた。「自身が障害者手帳を持っている」「障害者手帳を持っている同居家族がいる」「友人や親戚あるいは仕事やボランティアで継続的に関わる人のなかに、障害者手帳所持者がいる」の3つの質問項目を用いる。回答は「あてはまる」「あてはまらない」の2件法のため、 $2 \times 2 \times 2$ の8パターンが得られた（表9-1）。分析にあたって、さらに4分類へと再統合を行った（表9-2、表9-3）。

表9-1 身近な障害者の有無（8分類）

	人数	%
本人のみ	97	2.8
本人と同居家族	23	0.7
同居家族のみ	139	4.0
本人と継続的關係	32	0.9
同居家族と継続的關係	51	1.5
本人と同居家族と継続的關係	22	0.6
継続的關係のみ	266	7.6
いない	2870	82.0
合計	3500	100.0

表9-2 身近な障害者4群

	人数	%
身内のみ	259	7.4
身内&身近	105	3.0
身近のみ	266	7.6
いない	2870	82.0
合計	3500	100.0

表9-3 身近な障害者4群(マトリクス)

		身近 友人等継続的關係	
		いる	いない
身内	本人、同居家族 いる	身内&身近 (105人、3.0%)	身内のみ (259人、7.4%)
	いない	身近のみ (266人、7.6%)	いない (2870人、82.0%)

2. 身近な障害者4群とパラスポーツ接触経験および接触意欲の關係

(1) パラスポーツ接触経験（する、みる）

パラスポーツ接触経験（する、みる）を捉えるため、以下の4項目を用意した。「パラスポーツを体験したことがある」「パラスポーツの試合をテレビやインターネットで見たことがある」「パラスポーツに関する記事を新聞や雑誌で読んだことがある」「競技場や体育館、スタジアムなどでパラスポーツを観戦したことがある」。回答は「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」の4件法で得て、クロス集計をおこなった（表9-4）。

表9-4 身近な障害者（4群）とパラスポーツ接触経験のクロス集計

		どちらかと		どちらかと		χ^2 値	P 値	
		あてはまる	いえない	あてはまる	あてはまらない			
【する】 パラスポーツを体験したことがある	身内のみ (n=259)	4.6	1.9	7.7	85.7	81.307	<.001	***
	身内&身近 (n=105)	12.4	4.8	14.3	68.6			
	身近のみ (n=266)	5.3	4.9	7.1	82.7			
	いない (n=2870)	1.8	2.3	6.7	89.2			
【みる】 パラスポーツの試合をテレビやインターネットで見たことがある	身内のみ (n=259)	14.3	23.6	10.0	52.1	82.546	<.001	***
	身内&身近 (n=105)	31.4	19.0	17.1	32.4			
	身近のみ (n=266)	29.3	28.2	10.2	32.3			
	いない (n=2870)	14.7	21.2	14.5	49.7			
【みる】 パラスポーツに関する記事を新聞や雑誌で読んだことがある	身内のみ (n=259)	7.7	19.7	13.9	58.7	72.306	<.001	***
	身内&身近 (n=105)	19.0	24.8	10.5	45.7			
	身近のみ (n=266)	21.8	28.2	12.0	38.0			
	いない (n=2870)	9.6	19.7	15.2	55.6			
【みる】 競技場や体育館、スタジアムなどでパラスポーツを観戦したことがある	身内のみ (n=259)	2.3	3.5	7.7	86.5	67.874	<.001	***
	身内&身近 (n=105)	10.5	4.8	12.4	72.4			
	身近のみ (n=266)	5.3	5.3	5.3	84.2			
	いない (n=2870)	1.7	2.0	7.3	89.0			

***:p<.001

カイ二乗検定の結果、すべての項目で0.1%水準の有意差がみられた。「身内&身近」群が最も経験率が高い。前回調査（本多 2019）と同じ傾向の結果であった。

さらに、4件法の得点を逆転させ「あてはまる」3点から「あてはまらない」0点として総和を算出しパラスポーツ接触経験尺度を作成した。得点が高いほどパラスポーツ接触経験が多いことを表す。信頼性係数は $\alpha=0.668$ であった。0.7に近い数値と判断して尺度として用いる。

身近な障害者4群を独立変数とし、パラスポーツ接触経験尺度を従属変数とする一元配置分散分析（表9-5）の結果（ $F(3, 3496)=36.553$ ）0.1%水準での有意差がみられた。TukeyのHSD法による多重比較の結果、「身内&身近」（平均値3.81）と「身内のみ」（同2.24）および「いない」（同2.17）のあいだに5%水準、ならびに「身近のみ」（同3.53）と「身内のみ」（同2.24）および「いない」（同2.17）のあいだに5%水準の有意差がみられた。

表9-5 身近な障害者（4群）ごとのパラスポーツ接触経験の記述統計

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	95%信頼区間		最小値	最大値
					下限	上限		
身内のみ	259	2.24	2.57	0.16	1.92	2.55	0	12
身内&身近	105	3.81	3.33	0.33	3.16	4.45	0	12
身近のみ	266	3.53	2.90	0.18	3.18	3.88	0	12
いない	2870	2.17	2.42	0.05	2.08	2.26	0	12

(2) パラスポーツ接触意欲（したい、みたい、支えたい）

パラスポーツ接触意欲（したい、みたい、支えたい）を捉えるため、以下の4項目を用意した。「健常者と一緒にパラスポーツを体験したい」「障害のある人と一緒にパラスポーツを体験したい」

「競技場や体育館、スタジアムなどに行ってパラスポーツを観戦したい」「パラスポーツを体験するイベントにボランティアや手伝いとして参加したい」。回答は上記と同様の4件法で得て、クロス集計をおこなった（表9-6）。

表9-6 身近な障害者（4群）とパラスポーツ接触意欲のクロス集計

		どちらかと いえば		どちらかと いえば		χ^2 値	P値	
		あてはまる	あてはまらない	あてはまる	あてはまらない			
【する】 健常者と一緒にパラ スポーツを体験したい	身内のみ (n=259)	2.7	13.1	20.5	63.7	74.998	<.001	***
	身内&身近 (n=105)	8.6	23.8	24.8	42.9			
	身近のみ (n=266)	6.8	21.1	27.1	45.1			
	いない (n=2870)	2.6	11.5	22.4	63.5			
【する】 障がいのある人と一 緒にパラスポーツを 体験したい	身内のみ (n=259)	3.9	14.3	21.2	60.6	119.204	<.001	***
	身内&身近 (n=105)	13.3	23.8	21.9	41.0			
	身近のみ (n=266)	9.0	23.7	25.6	41.7			
	いない (n=2870)	2.5	12.3	22.6	62.5			
【みる】 競技場や体育館、ス タジアム等でパラ スポーツを観戦したい	身内のみ (n=259)	3.5	11.6	18.9	66.0	86.111	<.001	***
	身内&身近 (n=105)	12.4	21.9	21.9	43.8			
	身近のみ (n=266)	8.6	19.9	27.4	44.0			
	いない (n=2870)	2.9	12.7	21.4	63.0			
【支える】 パラスポーツ体験イ ベントにボランティ アや手伝いとして参 加したい	身内のみ (n=259)	2.3	10.4	19.7	67.6	77.450	<.001	***
	身内&身近 (n=105)	9.5	23.8	18.1	48.6			
	身近のみ (n=266)	6.0	19.5	27.8	46.6			
	いない (n=2870)	2.3	11.3	22.3	64.1			

***:p<.001

カイ二乗検定の結果、4項目すべてで0.1%水準の有意差がみられた。(1)のパラスポーツ接触経験と同様に、4項目すべてで「身内&身近」群および「身近のみ」群が「(どちらかといえば)あてはまる」割合が高かった。前回調査と同じ傾向の結果であった(本多 2019)。

さらに、この4項目の4件法の得点を逆転させ「あてはまる」3点から「あてはまらない」0点として総和を算出し、パラスポーツ接触意欲尺度を作成した。得点が高いほどパラスポーツ接触意欲が高いことを表す。尺度の信頼性係数は $\alpha = 0.927$ であった。

身近な障害者4群を独立変数とし、パラスポーツ接触経験尺度を従属変数とする一元配置分散分析を行った(表9-7)結果($F(3, 3496) = 33.377$)0.1%水準での有意差がみられた。TukeyのHSD法による多重比較の結果、「身内&身近」(平均値4.05)と「身内のみ」(同2.16)および「いない」(同2.15)のあいだに5%水準、ならびに「身近のみ」(同3.68)と「身内のみ」(同2.16)および「いない」(同2.15)のあいだに5%水準の有意差がみられた。

表9-7 身近な障害者（4群）ごとのパラスポーツ接触意欲の記述統計

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	95%信頼区間		最小値	最大値
					下限	上限		
身内のみ	259	2.16	2.90	0.18	1.81	2.52	0	12
身内&身近	105	4.05	3.70	0.36	3.33	4.76	0	12
身近のみ	266	3.68	3.53	0.22	3.25	4.10	0	12
いない	2870	2.15	2.91	0.05	2.04	2.26	0	12

パラスポーツ接触意欲も、「身近」にいる人（「身内&身近」および「身近のみ」）が高かった。最後に、パラスポーツ接触の経験および意欲の組合せの集計結果をまとめることで、「現在地」を確認したい。まずパラスポーツ接触経験尺度を次の3群に分けた。「0点」を「無」群（40.2%、1406人）、「1～3点」を「中群」（28.4%、993人）、「4～12点」を「高群」（31.5%、1101人）次に、パラスポーツ接触意欲尺度を次の3群に分けた。「0点」を「無」群（51.8%、1814人）、「1～3点」を「中群」（14.4%、503人）、「4～12点」を「高群」（33.8%、1183人）そして、身近な障がい者4群ごとにパラスポーツ接触経験3群（表側）および接触意欲3群（表頭）の組み合わせを確認すると、表9-8のように分類される（行%ではなく9マス合計%で記載）。

表9-8 身近な障害者4群ごとのパラスポーツ接触経験と接触意欲グループ分け

身内のみ n=259		意欲			全体	身内&身近 n=105		意欲			全体
		無 n=138	中 n=39	高 n=82				無 n=31	中 n=18	高 n=56	
経験	無 n=115	37.8	3.9	2.7	44.4	無 n=27	20.0	3.8	1.9	25.7	
	中 n=59	11.2	5.8	5.8	22.8	中 n=22	7.6	2.9	10.5	21.0	
	高 n=85	4.2	5.4	23.2	32.8	高 n=56	1.9	10.5	41.0	53.3	
全体		53.3	15.1	31.7	100.0	全体	29.5	17.1	53.3	100.0	

身近のみ n=266		意欲			全体	いない n=2870		意欲			全体
		無 n=92	中 n=36	高 n=138				無 n=1553	中 n=410	高 n=907	
経験	無 n=64	19.5	1.1	3.4	24.1	無 n=1200	36.7	3.1	2.0	41.8	
	中 n=72	8.3	5.6	13.2	27.1	中 n=840	13.7	7.0	8.6	29.3	
	高 n=130	6.0	6.8	35.3	48.9	高 n=830	3.8	4.1	21.0	38.9	
全体		34.6	13.5	51.9	100.0	全体	54.1	14.3	31.6	100.0	

まず「無経験かつ無意欲」グループと「高経験かつ高意欲」グループが目立つ。前者は経験もまったくなく、意欲もまったく持ち合わせていない。後者は経験が一定程度以上あり、一定程度以上の意欲も持ち合わせた、パラスポーツ普及の「核」となるグループといえる。次に、「高経験だが意欲は無 or 中」グループは「経験したが魅力を感じなかった」グループといえる。このグループと反対にあたるのが「高意欲だが経験は無 or 中」グループであり、「経験したいが機会がない」グループといえる。そしてそれ以外の「経験と意欲のどちらも無 or 中」グループは魅力も感じず機会もないといえる。

以上の5グループを身近な障がい者4群ごとにまとめると、表9-9になる。

表9-9 身近な障害者（4群）ごとのパラスポーツ接触意欲の記述統計

	① 無経験 無意欲	② 無or中経験 無or中意欲	③ 高経験 無or中意欲	④ 無or中経験 高意欲	⑤ 高経験 高意欲
身内のみ(259)	37.8	20.9	9.6	8.5	23.2
身内&身近(105)	20.0	14.3	12.4	12.4	41.0
身近のみ(266)	19.5	15.0	12.8	16.6	35.3
いない(2870)	36.7	23.8	7.9	10.6	21.0

「身内&身近」および「身近のみ」群では「⑤高経験高意欲」が最も多いが（41.0%、35.3%）、その他の群でも「⑤」は2割程度いる。東京2020パラリンピックの機運醸成イベント等で経験したさいに魅力を感じ、東京2020パラリンピック後も意欲が継続していると考えられるので、引き続き経験の機会があれば「⑤」の状態を維持することが期待できる。「②」と「④」グループも、経験の「機会」を増やすことで「⑤」に移行する可能性がある。ただし、その経験が「もっと知りたい・見たい・やってみたい」という魅力を感じる機会でなければ「⑤」に移行しないだろう。

「①」は介入困難と考えられ、他のグループに優先的に働きかけることが効率的といえる。また「③」も、経験が一定程度をした結果として意欲が低いため、再度「魅力」を感じるような機会を提供するのは困難かもしれない、優先的に働きかけるグループとはいえないだろう。

3. まとめ

「身内&身近」群と「身近のみ」群がパラスポーツ接触経験も意欲も高かった。つまり、「身近」に障がい者がいることがパラスポーツ接触につながる事が窺われる。しかしながら、「身内&身近」群は最もボリュームが小さく（105人）、全体の3.0%にすぎない。この群の割合を増やすことがパラスポーツの普及・促進に向けた政策のポイントのひとつと思われる。例えば、「身内のみ」群をターゲットとして、同居家族以外の障がい者とパラスポーツを経験（する・みる・支える）する機会を増やす取り組みが考えられる。その一例としては、ちばしパラスポーツコンシェルジュが取り組んでいる、スポーツがしたい障がい者一人ひとりに合うパラスポーツをマッチングするような施策がありえるだろう。そうしたマッチングのプロセスを経て「パラスポーツコンシェルジュ等のスタッフと顔なじみになる」や「パラスポーツの団体やチームに加入する」または「定期的に会うパラスポーツの仲間ができる」といった人との出会いに至れば、「身内のみ」群だった人が「身内&身近」群へと移行するだろう。「身内&身近」群がパラスポーツ接触の経験および意欲が高い理由は、すでにこういった人との出会いにあるのではないか。

謝辞

調査票の質問に対する助言、ならびに障害のある方とその家族が参加するスポーツ・イベントを見学させてくださったちばしパラスポーツコンシェルジュ杉山浩氏に感謝申し上げます。

引用・参考文献

本多敏明（2019）「第8章 身近な障がい者の有無とパラスポーツ経験および意欲との関連」淑徳大学コミュニティ政策学部『社会調査実習報告書 第7号』55-60頁。

本多敏明（2019a）「パラスポーツ接触（する、観る、支える（育てる））の「入口」は何か」淑徳大学総合福祉学部・コミュニティ政策学部『淑徳大学研究紀要』53、103-120頁。

あとがき

本科目「社会調査実習」は、(一社)社会調査協会によって認定される社会調査士資格を取得するための必須科目となっており、社会調査協会の定めるところによれば、本科目(=社会調査協会が指定する「社会調査の実習を中心とする科目」)には、年間30回の授業を必要とする。「社会調査実習」はコミュニティ政策学部のカリキュラム編成上、前期に週2コマ、計30回という形をとることとなった。新型コロナウイルス感染症予防のため、パソコン機器や手指のアルコール消毒、ソーシャル・ディスタンスの確保、教室内の換気など、予防対策をとった上で行われた。履修対象は3・4年生であり、本年度は3年生6名が履修した。社会調査士資格を取得するためには、本科目のほかに、1年次から2年次の間に5つの科目を修得している必要がある。したがって本報告書の作成は、1年次から始まっていたと言っても過言ではない。

今年度の調査テーマは「パラスポーツ・パラリンピック」であった。令和の時代になり、多様性(Diversity)が一般の人々にも浸透しつつあるなかで、パラスポーツ・パラリンピックとそれに関連する要因を検討することは、非常に意義のあることと言えよう。障がいのある者も、そうでない者も、共に分け隔てのない社会をつくるために、本調査の結果が役に立つことができれば幸いである。

本調査の実施にあたっては、多くの人々にご協力いただいた。改めて御礼申し上げたい。

令和5年3月

社会調査助手 渡辺 由希

基礎集計表

SC1 あなたの性別をお知らせください。

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	男性	1804	51.5
2	女性	1696	48.5

SC2_1 あなたの年齢をお知らせください。

		回答数	%
全体		3500	100.0
平均値			46.61
最小値			20.00
最大値			69.00

SC3 あなたのお住まい（都道府県）をお知らせください。
 (3500名が「千葉県」のため表は省略)

SC4 あなたの居住市町村を選んでください。

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	千葉市	564	16.1
2	東京湾岸エリア（市川市、浦安市、船橋市、鎌ヶ谷市、習志野市、八千代市、市原市、袖ヶ浦市、木更津市）	1383	39.5
3	千葉市近接エリア（佐倉市、四街道市、八街市、茂原市、東金市、大網白里市、酒々井町、長柄町）	272	7.8
4	東葛エリア（松戸市、野田市、柏市、流山市、我孫子市）	817	23.3
5	印旛エリア（成田市、印西市、白井市、富里市、栄町）	188	5.4
6	香取・東総エリア（銚子市、旭市、匝瑳市、香取市、神崎町、多古町、東庄町）	84	2.4
7	九十九里エリア（山武市、九十九里町、芝山町、横芝光町、一宮町、睦沢町、長生村、白子町、長南町）	50	1.4
8	南房総・外房・内房エリア（君津市、富津市、館山市、勝浦市、鴨川市、南房総市、いすみ市、大多喜町、御宿町、鋸南町）	142	4.1

SC5 あなたは結婚していらっしゃいますか。

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	未婚	1269	36.3
2	既婚（離別・死別含む）	2231	63.7

SC6 あなたにはお子さまがいらっしゃいますか。

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	同居している子どもがいる	1273	36.4
2	同居はしていないが子どもがいる	438	12.5
3	子どもはいない	1789	51.1

SC7 あなたの職業をお知らせください。

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	会社勤務（一般社員）	1011	28.9
2	会社勤務（管理職）	268	7.7
3	会社経営（経営者・役員）	49	1.4
4	公務員・教職員・非営利団体職員	163	4.7
5	派遣社員・契約社員	219	6.3
6	自営業（商工サービス）	109	3.1
7	SOHO	45	1.3
8	農林漁業	12	0.3
9	専門職（弁護士・税理士等・医療関連）	89	2.5
10	パート・アルバイト	552	15.8
11	専業主婦・主夫	517	14.8
12	学生	37	1.1
13	無職	371	10.6
14	その他の職業	58	1.7

SC8 あなたご自身やあなたのご家族の方に、次のようなところにお勤めの方はいらっしゃいますか。あてはまるものをすべてお知らせください。

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	エネルギー・素材・産業機械	128	3.7
2	食品	135	3.9
3	飲料・嗜好品	35	1.0
4	薬品・医療用品	58	1.7
5	化粧品・トイレタリー・サニタリー	27	0.8
6	ファッション・アクセサリ	45	1.3
7	精密機械・事務用品	40	1.1
8	家電・AV機器	48	1.4
9	自動車・輸送機器	49	1.4
10	家庭用品	8	0.2
11	趣味・スポーツ用品	22	0.6
12	不動産・住宅設備	163	4.7
13	情報・通信	259	7.4
14	流通・小売業	329	9.4
15	金融・保険	215	6.1
16	交通・レジャー	167	4.8
17	外食・各種サービス	245	7.0
18	官公庁・団体	198	5.7
19	教育・医療サービス・宗教	403	11.5
20	新聞・雑誌・テレビ・ラジオ・広告等マスコミ関係	43	1.2
21	市場調査	21	0.6
22	その他	574	16.4
23	あてはまるものはない	952	27.2

Q1 あなたは以下のパラスポーツを知っていますか。あてはまるものを選んでください。

Q1_1 ボッチャ

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	だいたいのルールを知っている	300	8.6
2	ルールは知らないが、名称は知っている	1831	52.3
3	知らない	1369	39.1

Q1_2 ゴールボール

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	だいたいのルールを知っている	154	4.4
2	ルールは知らないが、名称は知っている	786	22.5
3	知らない	2560	73.1

Q1_3 車いすバスケットボール

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	だいたいのルールを知っている	371	10.6
2	ルールは知らないが、名称は知っている	2291	65.5
3	知らない	838	23.9

Q1_4 車いすラグビー

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	だいたいのルールを知っている	215	6.1
2	ルールは知らないが、名称は知っている	1582	45.2
3	知らない	1703	48.7

Q1_5 車いすテニス

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	だいたいのルールを知っている	525	15.0
2	ルールは知らないが、名称は知っている	2141	61.2
3	知らない	834	23.8

Q1_6 車いすフェンシング

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	だいたいのルールを知っている	92	2.6
2	ルールは知らないが、名称は知っている	1143	32.7
3	知らない	2265	64.7

Q1_7 パラアーチェリー

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	だいたいのルールを知っている	108	3.1
2	ルールは知らないが、名称は知っている	1025	29.3
3	知らない	2367	67.6

Q1_8 パラテコンドー

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	だいたいのルールを知っている	42	1.2
2	ルールは知らないが、名称は知っている	542	15.5
3	知らない	2916	83.3

Q1_9 シットティングバレーボール

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	だいたいのルールを知っている	134	3.8
2	ルールは知らないが、名称は知っている	812	23.2
3	知らない	2554	73.0

Q1_10 5人制サッカー（ブラインドサッカー）

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	だいたいのルールを知っている	253	7.2
2	ルールは知らないが、名称は知っている	1464	41.8
3	知らない	1783	50.9

Q2 あなたは以下の東京2020パラリンピック出場選手が千葉県にゆかりのある選手だということを知っていますか。あてはまるものを選んでください。

Q2_1 車いすテニス男子 国枝慎吾 選手（柏市出身、麗澤大学卒業）

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	知っている	1026	29.3
2	知らない	1782	50.9
3	知らなかったが、これから応援したい	692	19.8

Q2_2 バトミントン女子 里見紗季奈 選手（八街市出身、千城台高校卒業）

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	知っている	119	3.4
2	知らない	2479	70.8
3	知らなかったが、これから応援したい	902	25.8

Q2_3 水泳男子 鈴木孝幸 選手（千葉県在住）

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	知っている	189	5.4
2	知らない	2445	69.9
3	知らなかったが、これから応援したい	866	24.7

Q2_4 車いすバスケットボール男子 香西宏昭 選手（千葉市出身、千葉県在住）

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	知っている	160	4.6
2	知らない	2445	69.9
3	知らなかったが、これから応援したい	895	25.6

Q2_5 車いすバスケットボール男子 川原凜 選手（千葉県在住、千葉ホークス所属）

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	知っている	106	3.0
2	知らない	2490	71.1
3	知らなかったが、これから応援したい	904	25.8

Q2_6 車いすラグビー 池崎大輔 選手（浦安市在住）

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	知っている	201	5.7
2	知らない	2408	68.8
3	知らなかったが、これから応援したい	891	25.5

Q2_7 陸上競技 鈴木朋樹 選手（館山市出身、木更津総合高校卒業）

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	知っている	88	2.5
2	知らない	2509	71.7
3	知らなかったが、これから応援したい	903	25.8

Q2_8 バドミントン女子 杉野明子 選手（市原市出身、市原八幡高校、淑徳大学卒業）

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	知っている	83	2.4
2	知らない	2501	71.5
3	知らなかったが、これから応援したい	916	26.2

Q2_9 柔道女子 小川和紗 選手（市原市出身、千葉盲学校高等部卒業）

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	知っている	70	2.0
2	知らない	2517	71.9
3	知らなかったが、これから応援したい	913	26.1

Q2_10 ボッチャ 廣瀬隆喜選手（君津市出身）

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	知っている	163	4.7
2	知らない	2463	70.4
3	知らなかったが、これから応援したい	874	25.0

Q3 あなたは以下についてどのくらいあてはまりますか。あてはまるものを選んでください。

Q3_1 パラスポーツを体験したことがある

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	90	2.6
2	どちらかといえばあてはまる	89	2.5
3	どちらかといえばあてはまらない	247	7.1
4	あてはまらない	3074	87.8

Q3_2 パラスポーツの試合をテレビやインターネットで見たことがある

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	569	16.3
2	どちらかといえばあてはまる	764	21.8
3	どちらかといえばあてはまらない	486	13.9
4	あてはまらない	1681	48.0

Q3_3 パラスポーツに関する記事を新聞や雑誌で読んだことがある

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	373	10.7
2	どちらかといえばあてはまる	716	20.5
3	どちらかといえばあてはまらない	514	14.7
4	あてはまらない	1897	54.2

Q3_4 競技場や体育館、スタジアムなどでパラスポーツを観戦したことがある

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	81	2.3
2	どちらかといえばあてはまる	85	2.4
3	どちらかといえばあてはまらない	257	7.3
4	あてはまらない	3077	87.9

Q3_5 東京2020パラリンピックの開会式・閉会式を視聴して感動した

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	251	7.2
2	どちらかといえばあてはまる	542	15.5
3	どちらかといえばあてはまらない	573	16.4
4	あてはまらない	2134	61.0

Q3_6 東京2020パラリンピックの試合を観戦して試合内容に感動した

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	307	8.8
2	どちらかといえばあてはまる	648	18.5
3	どちらかといえばあてはまらない	503	14.4
4	あてはまらない	2042	58.3

Q3_7 東京2020パラリンピックの試合を観戦して出場している選手に感動した

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	352	10.1
2	どちらかといえばあてはまる	680	19.4
3	どちらかといえばあてはまらない	497	14.2
4	あてはまらない	1971	56.3

Q3_8 東京2020パラリンピックの試合を観戦して大会を支えている人に感動した

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	227	6.5
2	どちらかといえばあてはまる	671	19.2
3	どちらかといえばあてはまらない	551	15.7
4	あてはまらない	2051	58.6

Q3_9 健常者と一緒にパラスポーツを体験したい

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	109	3.1
2	どちらかといえばあてはまる	444	12.7
3	どちらかといえばあてはまらない	794	22.7
4	あてはまらない	2153	61.5

Q3_10 障がいのある人と一緒にパラスポーツを体験したい

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	119	3.4
2	どちらかといえばあてはまる	479	13.7
3	どちらかといえばあてはまらない	796	22.7
4	あてはまらない	2106	60.2

Q3_11 競技場や体育館、スタジアムなどに行ってパラスポーツを観戦したい

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	128	3.7
2	どちらかといえばあてはまる	470	13.4
3	どちらかといえばあてはまらない	759	21.7
4	あてはまらない	2143	61.2

Q3_12 パラスポーツを体験するイベントにボランティアや手伝いとして参加したい

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	97	2.8
2	どちらかといえばあてはまる	429	12.3
3	どちらかといえばあてはまらない	783	22.4
4	あてはまらない	2191	62.6

Q3_13 福祉に関するボランティア活動（高齢者、子ども、障がい者などさまざまな生活課題を抱える人への支援など）に関心がある

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	155	4.4
2	どちらかといえばあてはまる	664	19.0
3	どちらかといえばあてはまらない	797	22.8
4	あてはまらない	1884	53.8

Q3_14 教育関係に関するボランティア活動（学校教育や社会教育・生涯学習活動への協力など）に関心がある

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	148	4.2
2	どちらかといえばあてはまる	630	18.0
3	どちらかといえばあてはまらない	803	22.9
4	あてはまらない	1919	54.8

Q3_15 スポーツに関するボランティア活動（スポーツイベントの運営、少年スポーツの支援活動など）に関心がある

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	115	3.3
2	どちらかといえばあてはまる	536	15.3
3	どちらかといえばあてはまらない	816	23.3
4	あてはまらない	2033	58.1

Q3_16 国際協力に関するボランティア活動（開発途上国への援助、国際機関の募金活動など）に関心がある

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	131	3.7
2	どちらかといえばあてはまる	568	16.2
3	どちらかといえばあてはまらない	818	23.4
4	あてはまらない	1983	56.7

Q3_17 災害支援に関するボランティア活動（災害時の救援・支援、避難者への支援・募金、防災活動など）に関心がある

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	145	4.1
2	どちらかといえばあてはまる	790	22.6
3	どちらかといえばあてはまらない	741	21.2
4	あてはまらない	1824	52.1

Q3_18 環境保全に関するボランティア活動（自然保護、里山保全、リサイクル活動など）に関心がある

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	171	4.9
2	どちらかといえばあてはまる	743	21.2
3	どちらかといえばあてはまらない	745	21.3
4	あてはまらない	1841	52.6

Q3_19 安全・安心に関するボランティア活動（防犯活動、交通安全活動、子どもの見守りなど）に関心がある

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	141	4.0
2	どちらかといえばあてはまる	732	20.9
3	どちらかといえばあてはまらない	820	23.4
4	あてはまらない	1807	51.6

Q3_20 芸術・文化に関するボランティア活動（美術館・博物館での活動、伝統文化の継承・普及活動など）に関心がある

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	138	3.9
2	どちらかといえばあてはまる	683	19.5
3	どちらかといえばあてはまらない	794	22.7
4	あてはまらない	1885	53.9

Q4 あなたのお住まいの地域についてお尋ねします。あてはまるものを選んでください。

Q4_1 地域は住みやすいと思う

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	633	18.1
2	どちらかといえばあてはまる	1930	55.1
3	どちらかといえばあてはまらない	545	15.6
4	あてはまらない	392	11.2

Q4_2 地域にお気に入りの場所がある

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	435	12.4
2	どちらかといえばあてはまる	1310	37.4
3	どちらかといえばあてはまらない	1128	32.2
4	あてはまらない	627	17.9

Q4_3 地域を歩くのは気持ちよい

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	550	15.7
2	どちらかといえばあてはまる	1659	47.4
3	どちらかといえばあてはまらない	813	23.2
4	あてはまらない	478	13.7

Q4_4 地域の雰囲気や土地柄が気に入っている

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	484	13.8
2	どちらかといえばあてはまる	1673	47.8
3	どちらかといえばあてはまらない	831	23.7
4	あてはまらない	512	14.6

Q4_5 地域が好きだ

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	508	14.5
2	どちらかといえばあてはまる	1699	48.5
3	どちらかといえばあてはまらない	815	23.3
4	あてはまらない	478	13.7

Q4_6 地域ではリラックスができる

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	540	15.4
2	どちらかといえばあてはまる	1856	53.0
3	どちらかといえばあてはまらない	666	19.0
4	あてはまらない	438	12.5

Q4_7 地域は大切だと思う

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	651	18.6
2	どちらかといえばあてはまる	1920	54.9
3	どちらかといえばあてはまらない	567	16.2
4	あてはまらない	362	10.3

Q4_8 地域に愛着を感じている

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	519	14.8
2	どちらかといえばあてはまる	1583	45.2
3	どちらかといえばあてはまらない	874	25.0
4	あてはまらない	524	15.0

Q4_9 地域に自分の居場所がある気がする

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	389	11.1
2	どちらかといえばあてはまる	1508	43.1
3	どちらかといえばあてはまらない	1004	28.7
4	あてはまらない	599	17.1

Q4_10 地域は自分のまちだという感じがする

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	427	12.2
2	どちらかといえばあてはまる	1486	42.5
3	どちらかといえばあてはまらない	1010	28.9
4	あてはまらない	577	16.5

Q5 あなたは以下のことがらを日常的におこないますか。あてはまるものを選んでください。

Q5_1 クラシック音楽を聴く

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	202	5.8
2	どちらかといえばあてはまる	512	14.6
3	どちらかといえばあてはまらない	799	22.8
4	あてはまらない	1987	56.8

Q5_2 本（雑誌や漫画を除く）を読む

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	706	20.2
2	どちらかといえばあてはまる	924	26.4
3	どちらかといえばあてはまらない	700	20.0
4	あてはまらない	1170	33.4

Q5_3 家で新聞を読む

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	556	15.9
2	どちらかといえばあてはまる	469	13.4
3	どちらかといえばあてはまらない	515	14.7
4	あてはまらない	1960	56.0

Q5_4 美術館や美術の博覧会に行く

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	219	6.3
2	どちらかといえばあてはまる	546	15.6
3	どちらかといえばあてはまらない	878	25.1
4	あてはまらない	1857	53.1

Q5_5 家でお菓子を手作りする

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	170	4.9
2	どちらかといえばあてはまる	443	12.7
3	どちらかといえばあてはまらない	724	20.7
4	あてはまらない	2163	61.8

Q5_6 賭け事をする（パチンコ・スロット・競馬など）

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	173	4.9
2	どちらかといえばあてはまる	304	8.7
3	どちらかといえばあてはまらない	350	10.0
4	あてはまらない	2673	76.4

Q5_7 スポーツを行う

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	326	9.3
2	どちらかといえばあてはまる	527	15.1
3	どちらかといえばあてはまらない	734	21.0
4	あてはまらない	1913	54.7

Q5_8 テレビやインターネット（動画配信）でスポーツの試合を見る

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	692	19.8
2	どちらかといえばあてはまる	902	25.8
3	どちらかといえばあてはまらない	616	17.6
4	あてはまらない	1290	36.9

Q5_9 競技場や体育館、スタジアムなどの会場にスポーツ観戦に行く

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	173	4.9
2	どちらかといえばあてはまる	423	12.1
3	どちらかといえばあてはまらない	737	21.1
4	あてはまらない	2167	61.9

Q5_10 家族のスポーツ支援（送迎等）やチームスタッフや大会スタッフ等の役割を担う

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	67	1.9
2	どちらかといえばあてはまる	192	5.5
3	どちらかといえばあてはまらない	498	14.2
4	あてはまらない	2743	78.4

Q6 千葉県では、以下の福祉政策に取り組んでいます。あなたは、それぞれの福祉政策について知っていますか。あてはまるものを選んでください。

Q6_1 千葉県手話言語条例

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	知っている	96	2.7
2	知らない	2851	81.5
3	知らないが、興味がある	553	15.8

Q6_2 障がいのある人等に関するマーク・標識

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	知っている	430	12.3
2	知らない	2522	72.1
3	知らないが、興味がある	548	15.7

Q6_3 ストラップ型ヘルプマーク・ヘルプカードの配布

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	知っている	403	11.5
2	知らない	2611	74.6
3	知らないが、興味がある	486	13.9

Q6_4 心の輪を広げる体験作文・障がい者週間のポスターの募集

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	知っている	103	2.9
2	知らない	2904	83.0
3	知らないが、興味がある	493	14.1

Q6_5 心の健康フェアの開催（ゲスト講演・相談コーナーなど）

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	知っている	141	4.0
2	知らない	2790	79.7
3	知らないが、興味がある	569	16.3

Q6_6 チーパス・スマイル（結婚から妊娠・出産、子育てまでの情報を提供する専用アプリ）

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	知っている	528	15.1
2	知らない	2496	71.3
3	知らないが、興味がある	476	13.6

Q6_7 千葉県ホームレス自立支援計画（ホームレスの人権擁護など）

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	知っている	99	2.8
2	知らない	2902	82.9
3	知らないが、興味がある	499	14.3

Q6_8 千葉県災害福祉支援チーム「DWA T」（大規模災害発生時に避難生活を送る要配慮者に対し福祉的支援を行うチーム）

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	知っている	154	4.4
2	知らない	2760	78.9
3	知らないが、興味がある	586	16.7

Q6_9 児童虐待防止に関するテレビ番組「コドモの未来をマモルTV～チバに生まれたみんなへ～」の放送

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	知っている	92	2.6
2	知らない	2830	80.9
3	知らないが、興味がある	578	16.5

Q6_10 障がいのある人の差別に関する相談窓口（地域相談員、広域専門指導員等を交えた話し合いなど）

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	知っている	177	5.1
2	知らない	2777	79.3
3	知らないが、興味がある	546	15.6

Q7 あなたは以下のような場面に遭遇した時、どうしますか。あてはまるものを選んでください。遭遇したことがない方も、遭遇した場合にどうするかを考えてお答えください。

Q7_1 お店の前の段差で車いすの人が困っていた

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	自分から声をかけ、手助けをする	2143	61.2
2	相手から声をかけられたら、手助けをする	853	24.4
3	特に何もしない	504	14.4

Q7_2 視覚障がい者が点字ブロックの上に自転車が置いてあって困っていた

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	自分から声をかけ、手助けをする	2005	57.3
2	相手から声をかけられたら、手助けをする	908	25.9
3	特に何もしない	587	16.8

Q7_3 聴覚障がい者が電車が止まった理由がわからず困っていた

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	自分から声をかけ、手助けをする	1326	37.9
2	相手から声をかけられたら、手助けをする	1436	41.0
3	特に何もしない	738	21.1

Q7_4 レストランで盲導犬を連れて人が入店を断られていた

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	自分から声をかけ、手助けをする	790	22.6
2	相手から声をかけられたら、手助けをする	1272	36.3
3	特に何もしない	1438	41.1

Q7_5 知的障がい者が子どもにからかわれていた

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	自分から声をかけ、手助けをする	1218	34.8
2	相手から声をかけられたら、手助けをする	1145	32.7
3	特に何もしない	1137	32.5

Q7_6 電車やバスでマタニティマークをつけた人が目の前に立った

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	自分から声をかけ、手助けをする	2033	58.1
2	相手から声をかけられたら、手助けをする	891	25.5
3	特に何もしない	576	16.5

Q7_7 ベビーカーを押した人がバスの乗り降りに困っていた

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	自分から声をかけ、手助けをする	2129	60.8
2	相手から声をかけられたら、手助けをする	850	24.3
3	特に何もしない	521	14.9

Q7_8 優先席の前に荷物を持った高齢者が立っていた

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	自分から声をかけ、手助けをする	2051	58.6
2	相手から声をかけられたら、手助けをする	831	23.7
3	特に何もしない	618	17.7

Q7_9 外国の人が目的地までの経路がわからず困っていた

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	自分から声をかけ、手助けをする	765	21.9
2	相手から声をかけられたら、手助けをする	1872	53.5
3	特に何もしない	863	24.7

Q7_10 子どもがスーパーマーケットで親とはぐれて困っていた

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	自分から声をかけ、手助けをする	1787	51.1
2	相手から声をかけられたら、手助けをする	1027	29.3
3	特に何もしない	686	19.6

Q8 あなたは以下の人びとが抱える生活上の課題がいくつか思い浮かびますか。あてはまるものを選んでください。

Q8_1 ヤングケアラー（家族のケアをする若年者）

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	二つ以上思い浮かぶ	928	26.5
2	一つだけ思い浮かぶ	896	25.6
3	思い浮かばない	1676	47.9

Q8_2 外国籍の住民

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	二つ以上思い浮かぶ	808	23.1
2	一つだけ思い浮かぶ	864	24.7
3	思い浮かばない	1828	52.2

Q8_3 L G B T Q（性的マイノリティ）

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	二つ以上思い浮かぶ	759	21.7
2	一つだけ思い浮かぶ	829	23.7
3	思い浮かばない	1912	54.6

Q8_4 元受刑者

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	二つ以上思い浮かぶ	733	20.9
2	一つだけ思い浮かぶ	856	24.5
3	思い浮かばない	1911	54.6

Q8_5 認知症高齢者の家族

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	二つ以上思い浮かぶ	1167	33.3
2	一つだけ思い浮かぶ	887	25.3
3	思い浮かばない	1446	41.3

Q8_6 ひとり親

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	二つ以上思い浮かぶ	1056	30.2
2	一つだけ思い浮かぶ	1082	30.9
3	思い浮かばない	1362	38.9

Q8_7 生活保護受給者

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	二つ以上思い浮かぶ	760	21.7
2	一つだけ思い浮かぶ	926	26.5
3	思い浮かばない	1814	51.8

Q8_8 身体障がい者（視覚、聴覚、肢体不自由）

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	二つ以上思い浮かぶ	1194	34.1
2	一つだけ思い浮かぶ	973	27.8
3	思い浮かばない	1333	38.1

Q8_9 精神障がい・知的障がい者

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	二つ以上思い浮かぶ	1031	29.5
2	一つだけ思い浮かぶ	927	26.5
3	思い浮かばない	1542	44.1

Q8_10 非正規雇用労働者

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	二つ以上思い浮かぶ	864	24.7
2	一つだけ思い浮かぶ	914	26.1
3	思い浮かばない	1722	49.2

Q9 あなたがあてはまるものを選んでください。

Q9_1 千葉市に通勤・通学している

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	433	12.4
2	あてはまらない	3067	87.6

Q9_2 現在のお住まいは、戸建てである

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	1807	51.6
2	あてはまらない	1693	48.4

Q9_3 現在のお住まいは、持ち家である

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	2297	65.6
2	あてはまらない	1203	34.4

Q9_4 今の地域に15年以上住んでいる

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	2091	59.7
2	あてはまらない	1409	40.3

Q9_5 一人暮らしである

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	644	18.4
2	あてはまらない	2856	81.6

Q9_6 年に1回以上は、図書館を利用する

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	999	28.5
2	あてはまらない	2501	71.5

Q9_7 大卒以上である（在学中含む）

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	1705	48.7
2	あてはまらない	1795	51.3

Q9_8 自身が障害者手帳を持っている

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	174	5.0
2	あてはまらない	3326	95.0

Q9_9 障害者手帳を持っている同居家族がいる

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	235	6.7
2	あてはまらない	3265	93.3

Q9_10 友人や親戚あるいは仕事やボランティアで継続的に関わる人のなかに、障害者手帳所持者がいる

		回答数	%
全体		3500	100.0
1	あてはまる	371	10.6
2	あてはまらない	3129	89.4

調 査 票

対象外条件 SC2_1 < 20 または SC2_1 > 69 (即時回答終了)

対象外条件 SC3 ≠ 「12. 千葉県」 (即時回答終了)

アンケート画面開始

Page 1

SC1 必須設定 回答必須

SC1

あなたの性別をお知らせください。

- 1 男性
- 2 女性

SC2 対象外条件 SC2_1 < 20 または SC2_1 > 69 (即時回答終了)
- カテゴリ 1歳
必須設定 回答必須
回答制御 回答範囲「0~99」に該当しない場合はアラートを表示

SC2

あなたの年齢をお知らせください。

歳

SC3 必須設定 回答必須
対象外条件 SC3 ≠ 「12. 千葉県」 (即時回答終了)

SC3

あなたのお住まい(都道府県)をお知らせください。

--- ▼

次へ

0 50 100(%)

SC4

必須設定 回答必須

SC4

あなたの居住市町村を選んでください。

- 1 千葉市
- 2 東京湾岸エリア(市川市、浦安市、船橋市、鎌ヶ谷市、習志野市、八千代市、市原市、袖ヶ浦市、木更津市)
- 3 千葉市近接エリア(佐倉市、四街道市、八街市、茂原市、東金市、大網白里市、酒々井町、長柄町)
- 4 東葛エリア(松戸市、野田市、柏市、流山市、我孫子市)
- 5 印旛エリア(成田市、印西市、白井市、富里市、栄町)
- 6 香取・東総エリア(銚子市、旭市、匝瑳市、香取市、神崎町、多古町、東庄町)
- 7 九十九里エリア(山武市、九十九里町、芝山町、横芝光町、一宮町、睦沢町、長生村、白子町、長南町)
- 8 南房総・外房・内房エリア(君津市、富津市、館山市、勝浦市、鴨川市、南房総市、いすみ市、大多喜町、御宿町、鋸南町)

次へ

0 50 100(%)

SC5

必須設定 回答必須

SC5

あなたは結婚していらっしゃいますか。

- 1 未婚
- 2 既婚(離別・死別含む)

SC6

必須設定 回答必須

SC6

あなたにはお子さまがいらっしゃいますか。

- 1 同居している子どもがいる
- 2 同居はしていないが子どもがいる
- 3 子どもはいない

次へ

0 50 100(%)

SC7

必須設定 回答必須

- カテゴリ 11. 専業主婦・主夫

回答者条件 SC5 = 「2. 既婚(離別・死別含む)」

SC7

あなたの職業をお知らせください。

- 1 会社勤務(一般社員)
- 2 会社勤務(管理職)
- 3 会社経営(経営者・役員)
- 4 公務員・教職員・非営利団体職員
- 5 派遣社員・契約社員
- 6 自営業(商工サービス)
- 7 SOHO
- 8 農林漁業
- 9 専門職(弁護士・税理士等・医療関連)
- 10 パート・アルバイト
- 11 専業主婦・主夫
- 12 学生
- 13 無職
- 14 その他の職業

次へ

0 50 100(%)

SC8

必須設定 回答必須

回答制御 排他カテゴリ「23. あてはまるものはない」に該当しない場合はアラートを表示

SC8

あなたご自身やあなたのご家族の方に、次のようなところにお勤めの方はいらっしゃいますか。あてはまるものをすべてお知らせください。（いくつでも）

- 1 エネルギー・素材・産業機械
- 2 食品
- 3 飲料・嗜好品
- 4 薬品・医療用品
- 5 化粧品・トイレタリー・サニタリー
- 6 ファッション・アクセサリ
- 7 精密機械・事務用品
- 8 家電・AV機器
- 9 自動車・輸送機器
- 10 家庭用品
- 11 趣味・スポーツ用品
- 12 不動産・住宅設備
- 13 情報・通信
- 14 流通・小売業
- 15 金融・保険
- 16 交通・レジャー
- 17 外食・各種サービス
- 18 官公庁・団体
- 19 教育・医療サービス・宗教
- 20 新聞・雑誌・テレビ・ラジオ・広告等マスコミ関係
- 21 市場調査
- 22 その他
- 23 あてはまるものはない

次へ

0 50 100(%)

「パラスポーツ」とは、ルールや用具を工夫することで、障がい者も健常者もともに楽しむことができるスポーツです。この調査では、固有名詞で「障害(者)」と表記されるもの以外は、「障がい(者)」と表記します。この調査で「障がい(者)」とだけ表記されている場合は「身体障がい(者)」を念頭にお答えください。

Q1_1	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q1_2	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q1_3	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q1_4	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q1_5	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q1_6	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q1_7	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q1_8	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q1_9	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q1_10	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム

Q1

あなたは以下のパラスポーツを知っていますか。

あてはまるものを選んでください。(それぞれひとつずつ)



だ
い
た
い
の
ル
ル
を
知
っ
て
い
る

ル
|
ル
は
知
ら
|
名
称
は
知
っ
て
い
る

知
ら
な
い
知
ら
な
い
が
、
知
っ
て
い
る

- | | | | | |
|---|--------|----|----|----|
| 1 | ボッチャ | 1○ | 2○ | 3○ |
| 2 | ゴールボール | 1○ | 2○ | 3○ |

あなたご自身に関するアンケート

3	車いすバスケットボール	1	2	3
4	車いすラグビー	1	2	3
5	車いすテニス	1	2	3
6	車いすフェンシング	1	2	3
7	パラアーチェリー	1	2	3
8	パラテコンドー	1	2	3
9	シッティングバレーボール	1	2	3
10	5人制サッカー(ブラインドサッカー)	1	2	3



だ
い
た
い
の
ル
|
ル
を
知
っ
て
い
る

ル
|
ル
は
知
ら
な
い
名
称
は
が
知
っ
て
い
る

知
ら
な
い

次へ

0 50 100(%)

Q2_1	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q2_2	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q2_3	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q2_4	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q2_5	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q2_6	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q2_7	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q2_8	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q2_9	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q2_10	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム

Q2

あなたは以下の東京2020パラリンピック出場選手が千葉県にゆかりのある選手だということを知っていますか。あてはまるものを選んでください。(それぞれひとつずつ)

知
っ
て
い
る

知
ら
な
い

知
こ
ら
な
か
ら
っ
た
援
が
し
、
た
い



1	車いすテニス男子 国枝慎吾 選手(柏市出身、麗澤大学卒業)	1○	2○	3○
2	バドミントン女子 里見紗季奈 選手(八街市出身、千城台高校卒業)	1○	2○	3○
3	水泳男子 鈴木孝幸 選手(千葉県在住)	1○	2○	3○
4	車いすバスケットボール男子 香西宏昭 選手(千葉市出身、千葉県在住)	1○	2○	3○
5	車いすバスケットボール男子 川原凜 選手(千葉県在住、千葉ホークス所属)	1○	2○	3○
6	車いすラグビー 池崎大輔 選手(浦安市在住)	1○	2○	3○
7	陸上競技 鈴木朋樹 選手(館山市出身、木更津総合高校卒業)	1○	2○	3○
8	バドミントン女子 杉野明子 選手(市原市出身、市原八幡高校、淑徳大学卒業)	1○	2○	3○
9	柔道女子 小川和紗 選手(市原市出身、千葉盲学校高等部卒業)	1○	2○	3○

10 ボッチャ 廣瀬隆喜選手(君津市出身)

1〇 2〇 3〇

知 知 知
っ ら こ
て ら な
い ない
る いか
ら
か
っ
た
応
援
が
し
、
た
い



次へ



Q3_1	必須設定	回答必須
	設問表示順	個別動的指定
Q3_2	必須設定	回答必須
	設問表示順	個別動的指定
Q3_3	必須設定	回答必須
	設問表示順	個別動的指定
Q3_4	必須設定	回答必須
	設問表示順	個別動的指定
Q3_5	必須設定	回答必須
	設問表示順	個別動的指定
Q3_6	必須設定	回答必須
	設問表示順	個別動的指定
Q3_7	必須設定	回答必須
	設問表示順	個別動的指定
Q3_8	必須設定	回答必須
	設問表示順	個別動的指定
Q3_9	必須設定	回答必須
	設問表示順	個別動的指定
Q3_10	必須設定	回答必須
	設問表示順	個別動的指定
Q3_11	必須設定	回答必須
	設問表示順	個別動的指定
Q3_12	必須設定	回答必須
	設問表示順	個別動的指定
Q3_13	必須設定	回答必須
	設問表示順	個別動的指定
Q3_14	必須設定	回答必須
	設問表示順	個別動的指定
Q3_15	必須設定	回答必須
	設問表示順	個別動的指定
Q3_16	必須設定	回答必須
	設問表示順	個別動的指定
Q3_17	必須設定	回答必須
	設問表示順	個別動的指定
Q3_18	必須設定	回答必須
	設問表示順	個別動的指定
Q3_19	必須設定	回答必須
	設問表示順	個別動的指定
Q3_20	必須設定	回答必須
	設問表示順	個別動的指定

Q3

あなたは以下についてどのくらいあてはまりますか。
あてはまるものを選んでください。(それぞれひとつずつ)



あてはまる
どちらかといえばあてはまる
どちらかといえばあてはまらない
あてはまらない

1	パラスポーツを体験したことがある	1○	2○	3○	4○
2	パラスポーツの試合をテレビやインターネットで見たことがある	1○	2○	3○	4○
3	パラスポーツに関する記事を新聞や雑誌で読んだことがある	1○	2○	3○	4○
4	競技場や体育館、スタジアムなどでパラスポーツを観戦したことがある	1○	2○	3○	4○
5	東京2020パラリンピックの開会式・閉会式を視聴して感動した	1○	2○	3○	4○
6	東京2020パラリンピックの試合を観戦して試合内容に感動した	1○	2○	3○	4○
7	東京2020パラリンピックの試合を観戦して出場している選手に感動した	1○	2○	3○	4○
8	東京2020パラリンピックの試合を観戦して大会を支えている人に感動した	1○	2○	3○	4○
9	健常者と一緒にパラスポーツを体験したい	1○	2○	3○	4○
10	障がいのある人と一緒にパラスポーツを体験したい	1○	2○	3○	4○



あてはまる
どちらかといえばあてはまる
どちらかといえばあてはまらない
あてはまらない

11	競技場や体育館、スタジアムなどに行ってパラスポーツを観戦したい	1○	2○	3○	4○
12	パラスポーツを体験するイベントにボランティアや手伝いとして参加したい	1○	2○	3○	4○
13	福祉に関するボランティア活動 (高齢者、子ども、障がい者などさまざまな生活課題を抱える人への支援など)に関心がある	1○	2○	3○	4○
14	教育関係に関するボランティア活動 (学校教育や社会教育・生涯学習活動への協力など)に関心がある	1○	2○	3○	4○
15	スポーツに関するボランティア活動 (スポーツイベントの運営、少年スポーツの支援活動など)に関心がある	1○	2○	3○	4○
16	国際協力に関するボランティア活動	1○	2○	3○	4○

あなたご自身に関するアンケート

(開発途上国への援助、国際機関の募金活動など)に関心がある

17	災害支援に関するボランティア活動 (災害時の救援・支援、避難者への支援・募金、防災活動など)に関心がある	1○	2○	3○	4○
18	環境保全に関するボランティア活動 (自然保護、里山保全、リサイクル活動など)に関心がある	1○	2○	3○	4○
19	安全・安心に関するボランティア活動 (防犯活動、交通安全活動、子どもの見守りなど)に関心がある	1○	2○	3○	4○
20	芸術・文化に関するボランティア活動 (美術館・博物館での活動、伝統文化の継承・普及活動など)に関心がある	1○	2○	3○	4○



あ
て
は
ま
る

ど
ち
ら
か
と
い
え
ば
あ
て
は
ま
る

ど
ち
ら
か
と
い
え
ば
あ
て
は
ま
ら
な
い

あ
て
は
ま
ら
な
い

次へ



Q4_1	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q4_2	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q4_3	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q4_4	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q4_5	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q4_6	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q4_7	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q4_8	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q4_9	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q4_10	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム

Q4

あなたのお住まいの地域についてお尋ねします。

あてはまるものを選んでください。(それぞれひとつずつ)

あてはまる
どちらかといえ
どちらかといえ
あてはまる
あてはまらない
あてはまらない



1	地域は住みやすいと思う	1○	2○	3○	4○
2	地域にお気に入りの場所がある	1○	2○	3○	4○
3	地域を歩くのは気持ちよい	1○	2○	3○	4○
4	地域の雰囲気や土地柄が気に入っている	1○	2○	3○	4○
5	地域が好きだ	1○	2○	3○	4○
6	地域ではリラックスができる	1○	2○	3○	4○

あなたご自身に関するアンケート

- | | | | | |
|----------------------|----|----|----|----|
| 7 地域は大切だと思う | 1〇 | 2〇 | 3〇 | 4〇 |
| 8 地域に愛着を感じている | 1〇 | 2〇 | 3〇 | 4〇 |
| 9 地域に自分の居場所がある気がする | 1〇 | 2〇 | 3〇 | 4〇 |
| 10 地域は自分のまちだという感じがする | 1〇 | 2〇 | 3〇 | 4〇 |



あてはまる
どちらかといえ
ばあてはまる
ど
ち
ら
か
と
い
え
ば
あ
て
は
ま
ら
な
い
あ
て
は
ま
ら
な
い

次へ



Q5_1	必須設定	回答必須
	設問表示順	個別動的指定
Q5_2	必須設定	回答必須
	設問表示順	個別動的指定
Q5_3	必須設定	回答必須
	設問表示順	個別動的指定
Q5_4	必須設定	回答必須
	設問表示順	個別動的指定
Q5_5	必須設定	回答必須
	設問表示順	個別動的指定
Q5_6	必須設定	回答必須
	設問表示順	個別動的指定
Q5_7	必須設定	回答必須
	設問表示順	個別動的指定
Q5_8	必須設定	回答必須
	設問表示順	個別動的指定
Q5_9	必須設定	回答必須
	設問表示順	個別動的指定
Q5_10	必須設定	回答必須
	設問表示順	個別動的指定

Q5

あなたは以下のことがらを日常적으로おこないますか。

あてはまるものを選んでください。(それぞれひとつずつ)

あてはまる
どちらかといえ
どちらかといえ
あてはまる
あてはまらない
あてはまらない



1	クラシック音楽を聴く	1○	2○	3○	4○
2	本(雑誌や漫画を除く)を読む	1○	2○	3○	4○
3	家で新聞を読む	1○	2○	3○	4○
4	美術館や美術の博覧会に行く	1○	2○	3○	4○
5	家でお菓子を手作りする	1○	2○	3○	4○
6	賭け事をする(パチンコ・スロット・競馬など)	1○	2○	3○	4○

あなたご自身に関するアンケート

- | | | | | | |
|----|--------------------------------------|---|---|---|---|
| 7 | スポーツを行う | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8 | テレビやインターネット(動画配信)でスポーツの試合を見る | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 9 | 競技場や体育館、スタジアムなどの会場にスポーツ観戦に行く | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10 | 家族のスポーツ支援(送迎等)やチームスタッフや大会スタッフ等の役割を担う | 1 | 2 | 3 | 4 |



あ
て
は
ま
る

ど
ち
ら
か
と
い
え
ば
あ
て
は
ま
る

ど
ち
ら
か
と
い
え
ば
あ
て
は
ま
ら
な
い

あ
て
は
ま
ら
な
い

次へ



Q6_1	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q6_2	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q6_3	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q6_4	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q6_5	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q6_6	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q6_7	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q6_8	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q6_9	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q6_10	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム

Q6

千葉県では、以下の福祉政策に取り組んでいます。

あなたは、それぞれの福祉政策について知っていますか。

あてはまるものを選んでください。(それぞれひとつずつ)

知
っ
て
い
る

知
ら
な
い

知
ら
な
い
が
、
興
味
が
あ
る



1	千葉県手話言語条例	1○	2○	3○
2	障がいのある人等に関するマーク・標識	1○	2○	3○
3	ストラップ型ヘルプマーク・ヘルプカードの配布	1○	2○	3○
4	心の輪を広げる体験作文・障がい者週間のポスターの募集	1○	2○	3○
5	心の健康フェアの開催(ゲスト講演・相談コーナーなど)	1○	2○	3○
6	チーパス・スマイル(結婚から妊娠・出産、子育てまでの情報を提供する専用アプリ)	1○	2○	3○
7	千葉県ホームレス自立支援計画(ホームレスの人権擁護など)	1○	2○	3○
8	千葉県災害福祉支援チーム「DWAT」	1○	2○	3○

あなたご自身に関するアンケート

(大規模災害発生時に避難生活を送る要配慮者に対し福祉的支援を行うチーム)

- | | | | | |
|----|---|----|----|----|
| 9 | 児童虐待防止に関するテレビ番組「コドモの未来をマモルTV～チバに生まれたみんなへ～」の放送 | 1○ | 2○ | 3○ |
| 10 | 障がいのある人の差別に関する相談窓口(地域相談員、広域専門指導員等を交えた話し合いなど) | 1○ | 2○ | 3○ |



知
っ
て
い
る

知
ら
な
い

知
ら
な
い
が
、
興
味
が
あ
る

次へ



Q7_1	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q7_2	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q7_3	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q7_4	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q7_5	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q7_6	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q7_7	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q7_8	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q7_9	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q7_10	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム

Q7

あなたは以下のような場面に遭遇した時、どうしますか。

あてはまるものを選んでください。

遭遇したことがない方も、遭遇した場合にどうするかを考えてお答えください。

(それぞれひとつずつ)



自分から声をかけ、手助けをする
 相手から声をかけられたら、手助けをする
 特に何もしない

1	お店の前の段差で車いすの人が困っていた	1○	2○	3○
2	視覚障がい者が点字ブロックの上に自転車が置いてあって困っていた	1○	2○	3○

あなたご自身に関するアンケート

- | | | | | |
|----|-----------------------------|----|----|----|
| 3 | 聴覚障がい者が電車が止まった理由がわからず困っていた | 1〇 | 2〇 | 3〇 |
| 4 | レストランで盲導犬を連れた人が入店を断られていた | 1〇 | 2〇 | 3〇 |
| 5 | 知的障がい者が子どもにからかわれていた | 1〇 | 2〇 | 3〇 |
| 6 | 電車やバスでマタニティマークをつけた人が目の前に立った | 1〇 | 2〇 | 3〇 |
| 7 | ベビーカーを押した人がバスの乗り降りに困っていた | 1〇 | 2〇 | 3〇 |
| 8 | 優先席の前に荷物を持った高齢者が立っていた | 1〇 | 2〇 | 3〇 |
| 9 | 外国の人が目的地までの経路がわからず困っていた | 1〇 | 2〇 | 3〇 |
| 10 | 子どもがスーパーマーケットで親とはぐれて困っていた | 1〇 | 2〇 | 3〇 |



自分から声をかけ、手助けをする
相手から声をかけられたら、手助けをする
特に何もしない

次へ



Q8_1	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q8_2	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q8_3	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q8_4	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q8_5	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q8_6	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q8_7	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q8_8	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q8_9	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム
Q8_10	必須設定	回答必須
	設問表示順	ランダム

Q8

あなたは以下の人びとが抱える生活上の課題がいくつか思い浮かびますか。
 あてはまるものを選んでください。(それぞれひとつずつ)



二 一 思
 つ つ い
 以 だ 浮
 上 け か
 思 い ば
 浮 い な
 か 浮 い
 ぶ か い
 ぶ

- | | | | |
|------------------------|----|----|----|
| 1 ヤングケアラー(家族のケアをする若年者) | 1○ | 2○ | 3○ |
| 2 外国籍の住民 | 1○ | 2○ | 3○ |
| 3 LGBTQ(性的マイノリティ) | 1○ | 2○ | 3○ |
| 4 元受刑者 | 1○ | 2○ | 3○ |
| 5 認知症高齢者の家族 | 1○ | 2○ | 3○ |
| 6 ひとり親 | 1○ | 2○ | 3○ |
| 7 生活保護受給者 | 1○ | 2○ | 3○ |
| 8 身体障がい者(視覚、聴覚、肢体不自由) | 1○ | 2○ | 3○ |
| 9 精神障がい・知的障がい者 | 1○ | 2○ | 3○ |
| 10 非正規雇用労働者 | 1○ | 2○ | 3○ |

あなたご自身に関するアンケート



二つ以上思い浮かぶ
一つだけ思い浮かぶ
思い浮かばない

次へ

0 50 100(%)

Q9_1	必須設定	回答必須
Q9_2	必須設定	回答必須
Q9_3	必須設定	回答必須
Q9_4	必須設定	回答必須
Q9_5	必須設定	回答必須
Q9_6	必須設定	回答必須
Q9_7	必須設定	回答必須
Q9_8	必須設定	回答必須
Q9_9	必須設定	回答必須
Q9_10	必須設定	回答必須

Q9

あなたがあてはまるものを選んでください。(それぞれひとつずつ)



あてはまる
あてはまらない

1	千葉市に通勤・通学している	10	20
2	現在のお住まいは、戸建てである	10	20
3	現在のお住まいは、持ち家である	10	20
4	今の地域に15年以上住んでいる	10	20
5	一人暮らしである	10	20
6	年に1回以上は、図書館を利用する	10	20
7	大卒以上である(在学中含む)	10	20
8	自身が障害者手帳を持っている	10	20
9	障害者手帳を持っている同居家族がいる	10	20
10	友人や親戚あるいは仕事やボランティアで継続的に関わる人のなかに、障害者手帳所持者がいる	10	20



あてはまる
あてはまらない

送信

令和4年度 社会調査実習報告書 第11号

発行：2023年3月31日

発行者：淑徳大学コミュニティ政策学部

〒260-8701

千葉県中央区大巖寺町200

TEL 043-265-7331

印刷：株式会社 正文社

